

平成11年度

全国魚食普及担当者
育成検討会 報告書

平成12年3月

社団法人 大日本水産会

ま え が き

本会は、平成11年10月18日、東京・三会堂ビル・石垣記念ホールにおいて、「全国魚食普及担当者育成強化検討会」を開催した。

本検討会は、国の水産物消費改善総合対策事業の一環として位置づけられており、全国都道府県及び各主要団体が、それぞれ実施している魚食普及事業の相互情報交換の場を提供することと、併せて、先端有識者による講演会の実施などにより、各々の事業活動が効果的に展開されることを開催目的とした、非常に意義深い検討会である。

当日は、全国の水産担当官並びに民間団体及びその他関係者の参加をえて、水産物の消費にかかわる熱心な活動報告と意見交換が行われた。併せて、富山医科薬科大学教授の浜崎智仁先生による「魚と健康」という講演が行われ、上記の検討会参加者のほかに一般の皆様にも多数参加していただき、成功裡に本検討会を終了することができた。

ここに、熱心にご講演いただいた講師、開催にご協力いただいた関係各位に対し、心から謹んで御礼申し上げます。

平成12年 3 月

社団法人 大日本水産会

魚 と 健 康

講師／富山医科薬科大学 教授

浜 崎 智 仁

右ページの絵をご覧ください、これは、私が大学の講義で使う絵で、心筋梗塞になりやすいいくつかの危険因子が描いてあります。

心筋梗塞というのは、心臓を養っている血管が詰まって酸素がいなくなり、酸欠を起こして心臓が部分的に死んでしまうというもので、その結果、不整脈が起こったり、あるいは心臓が動かなくなって死に至る確率が非常に高くなるという病気です。

よく胸が痛くなると、狭心症じゃないか、心臓病じゃないかと心配される方がおられますが、ほとんどの場合そうではありません。胸が痛いというとき、どのあたりですかと聞くと「ここが痛いんです」と左側を指します。でも、それは絶対といっていいほど心臓の病気ではありません。指2本か3本くらいの範囲で「この辺りだ」と指せる場合、しかも左側を指せたら、まず心筋梗塞、狭心症ではありません。

心筋梗塞や狭心症の場合、どこが痛いかと強いていえば、指させないくらいの広範囲で、しかも漠然とした部分だからです。ですから「ここです」といえたら、心臓病ではなく、多分、肋間神経痛かなにかです。

また痛みが継続する時間をいうと、心臓病の場合は2、3秒きゅーっと痛くなるというものではなく、狭心症では5分、心筋梗塞では30分以上はずっと痛みや苦しさが続きます。

さて絵にもどりますが、この絵に描かれている心臓病の危険因子をご説明しましょう。ご覧ください、男性の老人です。危険因子のひとつは男性です。



男性は70代の後半できちっとこの世におさらばします。80代まで生きる女性のようにしぶとくありません。そして老人。やはり若い人は少なく、歳をとると血管がだんだん弱くなっていくからです。

次の危険因子は身体が感じる温度の急激な変化です。特に温かい所から急に寒い所へ出た場合が危険です。絵を見てみると、この年老いた男性は、温かい店内から北風が吹く寒い街に出ました。そして、重いカバンを持って階段を昇ったようです（階段を描き忘れていますが）。階段を昇るのは急激な運動を意味します。急に心臓に負荷をかけることは危険因子になります。普段運動をしていることは負の危険因子になり、身体にはいいことですが、運動をしていない人が急に運動をすると急性期の危険因子になります。

さらにこの人は、痛みが起こった部分を指ささずに擱んでいます。ということは胸の痛みが全体に広がっているのです。危険因子はまだあります。顔の赤さです。これはもともと赤ら顔というのではなくて、実はお酒を飲んでいたので、飲酒も急性期の危険因子で、それも飲んでいいる間ではなく、飲んだ後が危険です。

酒を飲むと排尿が必要以上に促進されて、脱水症状になることがあるからです。よくゴルフ場で心筋梗塞を起こす人がいますが、暑い所でプレーをしてたっぷり汗をかき、ビールを飲んでさらに排尿を促されて脱水症状を起こすからです。そしてタバコ。タバコは慢性の危険因子であると同時に急性期の危険因

子です。吸い続けるのはもちろんいけないし、吸った瞬間に発作を起こす場合もあります。というわけで、この絵は心臓病の危険因子をほとんどいい表しているのです、皆さんよく覚えておいてください。

ちょっと前置きが長くなりましたが、本日は心臓病の予防に効果があるといわれる魚の油の話をいたしましょう。

心臓病にかかりにくいグリーンランド人

1970年代にグリーンランドという世界最大の島で一連の疫学調査がありました。そしてそれを機に、栄養学の面で魚の油が急速にクローズアップされました。

ご存じのように北極圏に近いグリーンランドは非常な寒冷の地です。名前は「緑の島」という意味ですが、これはあとでこの島を誰かに高く売りつけようと考えた人が勝手につけた名前のもので、どこをみてもグリーンとは程遠い島です。

島の総面積は日本の6倍もありますが、ちょっと変わっていて、島の中央部に積もった雪が溶けずに長い年月をかけて溜まっていった結果、圧力で氷になり、その厚みが3キロメートル以上になっています。そのため氷の重さで中央部は300メートルも凹んでいます。島というのは普通海面の上に出ているものですが、グリーンランドの中央部は海面の下に沈んでいるのです。

グリーンランド人は、島の沿岸部に住んでいます。私たちは以前彼らをエスキモーと呼んでいました。しかし、これは彼らにとっては蔑称で、現在はグリーンランド人というのが正しい呼び方です。そのグリーンランド人に対する疫学調査で彼らに心筋梗塞が少ないことが分かりました。

現在、日本で最も怖い病気というとガンですが、欧米では心筋梗塞がそれにあたります。というのも、日本におけるガンによる死亡率がせいぜい全体の25%くらいなのに比べ、欧米では実に4割から5割の人が心筋梗塞で死亡しているのです。だから、欧米の心筋梗塞に対する研究は盛んで、グリーンランド人のように心筋梗塞にかかりにくい民族がこの世にいたら、当然、研究対象になるわけです。

しかも調査を進めていくと、グリーンランド人の心筋梗塞にならない理由が遺伝的なものではないことが分かりました。なぜなら、彼らがグリーンランドを離れ、隣のデンマークに移り住んで何年かすると、デンマーク人と同じくらい心筋梗塞を起こすからです。つまり、これは遺伝の問題ではなく環境の問題

だと分かったのです。そして環境のなかでも食生活が研究の対象になりました。

グリーンランド人が摂取する油の量を調べてみると、欧米人と同じくらいで日本人の1.5倍から2倍はとっています。それでは野菜はどうか。グリーンランドは木や草のないツンドラ地帯ですから、夏の間ちょっと緑が見える程度で、野菜はほとんど食べていません。

では、タバコはどうか。タバコ産業がないから、人々はほとんど吸っていないのではと思いますが、そうではなく、実に国民の9割が愛煙家です。しかも、1日30本、40本ならいいほうで、60本、80本というヘビースモーカーがたくさんいます。

油をたくさん摂っている、野菜を食べない、タバコは吸っていると条件は最悪な上に、狩猟が主体の生活ですから心理的なストレスも相当なものです。

しかし、これだけ悪い条件がそろっているのに心筋梗塞が少ない。ちなみにどれくらい少ないかということ、グリーンランドのウペルナビックという、居住者約2000人の地域でおこなった疫学調査では、1963年から約20年間に心筋梗塞で死んだ人の数がわずか3人でした。

そこで、その居住者の年齢や性別の条件を、そっくりデンマーク人に合わせてみて、デンマーク人が20年の間に何人死ぬかという推計値をだしてみたら、なんと10倍以上違うことが分かりました。

“油、野菜（を食べない）、タバコと悪い条件がそろっているのに、心筋梗塞が我々の十分の一というのは何故だ”。欧米の医学者、栄養学者が注目し、バンとダイエルベルグという二人のデンマークの内科医が調査に行きました。結論をいいますと、心筋梗塞が少ない理由は、やはり食べ物にあったのです。

グリーンランド人は、伝統的な生活をしている限り、主食はアザラシやオットセイです。魚はあまり食べていません。漁業は盛んですがとれた魚はほとんどが輸出用で、そこで得たお金でタバコを買ったり、砂糖を買います。

グリーンランド人をエスキモーといったのはアメリカインディアンの原住民で、「それを生で食べる」という意味ですが、彼らは解体したばかりのアザラシやオットセイの肝臓を生で食べます。生の肝臓にはビタミンCが含まれており、野菜不足が補えるからです。肝臓を食べおえると次は皮下脂肪、これが結構おいしいのです。要するにマグロでいえばトロの部分です。これが彼らの主食で三食食べます。

そんな食事のなかで一体何がよかったのか。アザラシを食べると何がいいのか。二人の内科医が出した答えは“魚の油”でした。

表1 脂肪酸の種類

飽和脂肪酸	・ 固形の量が多い
一価不飽和脂肪酸	・ オレイン酸（オリーブ油等の植物油）
多価不飽和脂肪酸	<ul style="list-style-type: none"> ・ n - 6 系列 リノール酸（大部分の植物油、紅花油、コーン油等）、アラキドン酸 ・ n - 3 系列 α-リノレン酸（シソ油）、EPA、DHA等の魚油

リノール酸と魚の油の違い

ここで、ざっと油についておさらいしておきましょう（表1）。

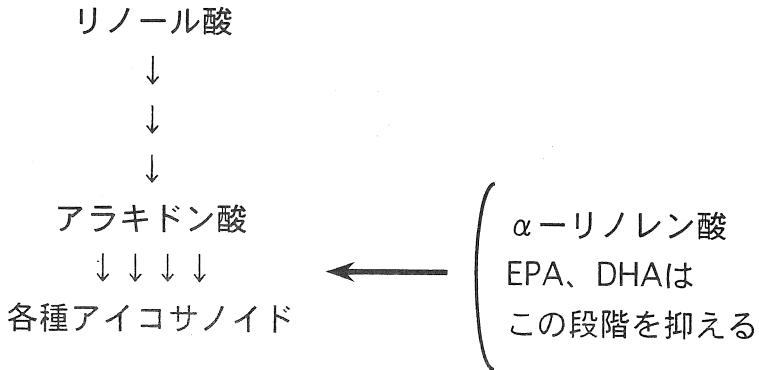
油のかなりの部分は脂肪酸というもので構成されています。脂肪酸についてはいろいろな名前が出てきますが、あまり深く考えなくて結構です。一番のポイントは、表の最後に太字で書かれているn-3系列の油で、その中にEPAやDHAなどの魚の油が入っています。

飽和脂肪酸というのは、牛や豚の脂肪に含まれる固形の油。また、一価不飽和脂肪酸というのは、オリーブ油が代表です。これらは、人間が自分の体の中で作れるので、他の食品からとらなければならないという必須の脂肪酸ではありません。ところが、n-6系列やn-3系列の多価不飽和脂肪酸は、体内で作ることができず、しかも、なければ困るという必須脂肪酸ですから、どうしても食品からとる必要があるわけです。

n-6系列の代表はリノール酸で、植物油にたくさん入っています。一方、n-3は魚の油の系列です。これは α -リノレン酸をたっぷり含んだプランクトンを、魚が食べることによって体の中で代謝、蓄積され、EPA（エイコサペンタエン酸）やDHA（ドコサヘキサエン酸）という脂肪酸に変わります。

アザラシの餌は魚です。魚を食べることによって、アザラシの皮下脂肪にはEPA、DHAなどのn-3系列の油がたくさん入ってきます。グリーンランド人はそのアザラシを食べていますから、当然、彼らも直接魚を食べると同

図1 リノール酸の害とその予防



アイコサノイドは（多量にできると）
ほとんどが悪玉

じように、たくさんのEPA、DHAを摂取しているわけです。

EPA、DHAを食べるとなぜ体に良いのか。それは、昔は体に良いといわれていたリノール酸が、実は悪玉だったことが分かったからです（図1）。リノール酸を摂取すると、体の中でゆっくり代謝されてアラキドン酸という脂肪酸に変わります。そのアラキドン酸は、体内で事件が起こるとアイコサノイドという物質（ホルモンの一種）に変わります。

このアイコサノイドがほとんど悪玉ばかりで、血栓症や不整脈の原因になります。つまり、元をたどればアイコサノイドはリノール酸を出発物質としてできるわけで、リノール酸の過剰摂取は体に大変悪いわけです。

では、魚の油の効果とは何か。図にあるように、EPAやDHAはアラキドン酸からアイコサノイドに変わる働きにストップをかけてくれます。実は、私たち内科の医者が外来の患者さんに薬を処方する場合、アラキドン酸からアイコサノイドへの代謝を抑制する薬をたくさん使っています。例えば、風邪をひいた時に処方する沈痛解熱薬、関節が痛い時に飲む痛み止め、さらに、アレルギーの人が飲む抗アレルギー薬、これらは全てアラキドン酸からアイコサノイドへの代謝を抑えているのです。

また、ステロイドホルモンといって、副作用もあるかわりにどんな病気にもよく効く薬があります。その薬は何をするかという、アラキドン酸が出てくるのを抑えるのです。

現在、医者も製薬会社も必死になって、アイコサノイドの代謝を抑える薬を開発しています。ところが、考えてみると、そんな大変な苦勞をしなくても、食事で簡単にカバーできるのです。つまり、ひとつは大元であるリノール酸をとらなければよく、もうひとつはEPA、DHAをきちんととってアイコサノイドへの代謝をブロックする。魚を食べると体に良いという最大のポイントは、実は、この代謝の流れを変えることにあるわけです。

グリーンランド人とデンマーク人は油の中身が違う

さて、グリーンランド人に心筋梗塞が少ない理由に話をもどすと、彼らが主食としているアザラシの皮下脂肪にはEPA、DHAがたくさん入っています。一方、リノール酸の摂取量が多いデンマーク人は、魚をあまり食べないためにEPAやDHAが少ない。つまりデンマーク人が摂取する油には、アイコサノイドに変わる危険なアラキドン酸が多く、ブレーキ役がほとんどないのです。

先程、グリーンランド人と欧米人は摂取する油の量は変わらないといいましたが、その中身はまるで違うことがお分かりいただけたと思います。この油の中身の違いが、心筋梗塞による死亡率の大きな差となって現れているのです。

ちなみに、グリーンランド人の平均寿命はというと、伝統的な生活をしている限り50歳です。“なんだ、EPA、DHAをたくさんとっていったって50歳で死んでしまったらどうしようもないじゃないか”とよくいわれます。しかし、彼らの最大の死因にはEPAもDHAも効果がありません。なぜなら、最大の死因は狩猟による事故死だからです。特に猟は若い人が多いために、その死亡率の高さは平均寿命を50歳にまで下げてしまうのです。

また、グリーンランド人は狩猟のほかに魚もとります。これも危険な仕事で海水温度が4～5度の海で操業します、誤って落下すると6分以内に出てこないで死んでしまいます。

私は、もしグリーンランド人に事故死がないとしたら、どのくらい生きられるか計算してみました。心筋梗塞による死亡、ガンによる死亡などを足すだけだいたい日本人と同じ平均寿命になりました。それも彼らは日本人よりも遙に大量のタバコを吸っているという状況での結果です。もし、彼らの喫煙量が少なかったら、すごい長寿の民族ではないかと想像できます。

表2 魚介類摂取頻度別の死亡率

死 因	魚介類摂取頻度			
	毎日	時々	稀	食べぬ
総死亡	1.00	1.07	1.12	1.32
胃ガン	1.00	1.04	1.04	1.44
肝ガン	1.00	1.03	1.16	2.62
子宮頸ガン	1.00	1.28	1.71	2.37
心臓病	1.00	1.09	1.13	1.24
脳血管疾患	1.00	1.08	1.10	1.10
高血圧症	1.00	1.55	1.89	1.79
肝硬変	1.00	1.21	1.30	1.74

17年間に死亡した人約55,000人につき、魚介類を毎日摂取する人たちの死亡率を1.00として、毎日食べない人たちの死亡率を年齢と性別で標準化して算定。(平山氏のデータより)

世界的な疫学調査が語るもの

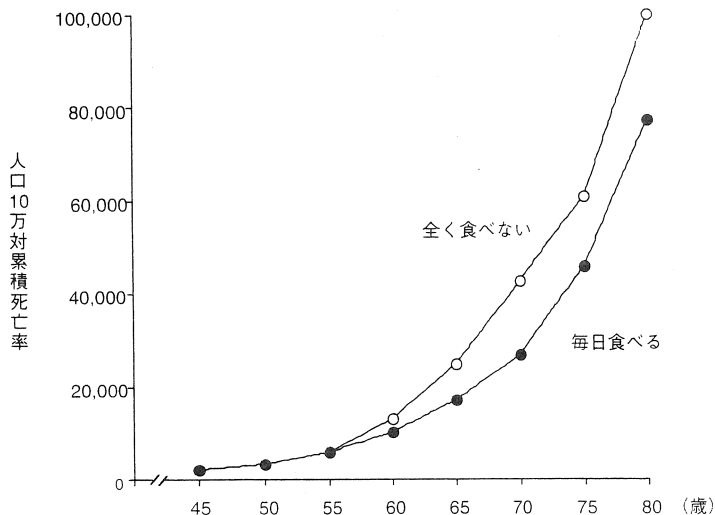
以前、国立がんセンターの疫学部長をされていた平山雄先生が、27万人の日本人を対象として、17年間にわたって追跡した疫学調査を指導されました。勿論、世界最大の調査です。その中に食事調査もありました。40歳以上の男女が17年間、何を食べていて、どういう病気で死んだかをみたのです。被験者27万人のうち死んだのは約5万5千人。日本では人が死ぬとその死亡原因を綿密に調べてあるので、一人ひとりの死亡原因がすべて分かります。

その結果、一番長生きした食べ物は魚で、二番目が緑黄色野菜でした。逆に一番早死にするのは、これは食べ物ではありませんが、タバコでした。

魚を毎日食べる人は、魚を全く食べない人よりも寿命にして5年くらい長生きしていました。一方、タバコは吸う人は吸わない人よりも、逆に5年くらい短命だったのです。二番目に悪いのは何か、それは酒でした。酒は百薬の長といいますが、これは真っ赤な嘘で科学的な根拠は全くありません。

表2は、魚を食べる頻度による死亡率をみたものです。毎日魚を食べている人の死亡率を1とした場合、“時々”という週に2～3回しか食べない人の死亡率は7%増加しています。“稀”の月にせいぜい2～3回では12%増加。それが、“食べない”人になるといっきに32%も増えています。左にいろいろな

図2 魚介類を毎日食べる場合と食べない場合の累積死亡率



病名が並んでいますが、ほとんどが右に行くに従って数が増えています。要するに、魚を食べないと死にやすくなりますよというわけです。

表にはありませんが、魚を食べない人は、大腸ガンになる率がよく食べる人の1.7倍、結腸ガンが2.8倍、さらに乳ガンの場合は4倍にもものぼるという結果も出ています。

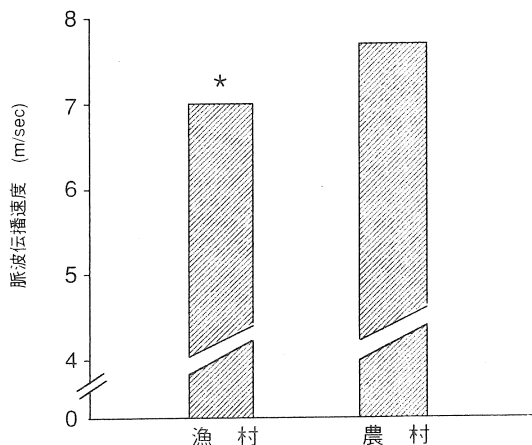
また、魚食には骨粗しょう症に対する効果も期待できます。これは小魚を骨ごと食べるとカルシウムがとれるのに加えて、最近では、EPA、DHAが骨に対していいという研究報告もあります。

しかし、魚を食べると食道ガンだけは増えます。食道ガンは現在日本人がかかるガン全体の4%くらいですが、魚を食べると少し増加します。これは小骨がいけないのではといわれています。熱いお茶を飲んだり、固いせんべいをあまりよく噛まないで食べたりすると、食道に危険な刺激となってガンになりやすいといわれますが、魚も小骨をよく噛んで砕いてから食べてください。

図2は累積死亡率のグラフで、何歳になったときに、何人生き残って何人が死んだかをみたものです。全員が80歳になった時、魚をまったく食べない人達はほとんど死にました。魚を毎日食べている人たちの死亡率をみると、全員が75歳になったときまでに、だいたい半分くらいは死んでいます。

ここで魚を食べない人達の死亡率のグラフを右に移動させて、魚を食べている人達のグラフに重ねてみます。どれだけ動かすと重なるかというのだいた

図3 脈拍伝播速度（動脈硬化度）の漁村と農村での比較



* : $P < 0.005$

い5歳です。つまり、その死亡率には5歳の差があるということです。いいかえれば、「魚を食べないと寿命が5年縮まりますよ」というわけです。

現在、日本では、ガン撲滅にやっきとなっていますが、たとえ、現時点でガンに効く特効薬が完成しても、日本人の平均寿命は3年くらいしか延びません。ところが魚を食べているかいないかで、5年という違いがでるのです。食事の内容はそれだけの影響力を持っているということです。

漁村の人は農村の人より血管が柔らかい

図3は、動脈がどれだけ硬いかを調べた富山県の疫学調査です。脈が伝わる速さを調べると動脈の血管の硬さが分かります。病的に硬い大動脈だと1秒間に20メートルを超すことがあります。それが生まれたばかりの赤ちゃんでは、だいたい1秒間に3メートルと、ゆっくり伝わります。血管が柔らかいために脈があまり進まないからです。こうして、脈の伝わる速さを調べることで血管の硬さが計れます。

魚をよく食べる漁村部では、平均で1秒間にだいたい7メートル。魚を食べることが少ない農村部の平均は7.7メートル。その差70センチ、約1割違います。つまり、農村部の方が血管が硬いわけです。

ひとくちに70センチといいますが、脈の伝わる速さが10センチ長くなるのに

約1年かかります。ということは、同じ年齢なのに漁村部と農村部では血管の若さが7歳も違うのです。

先ほど、魚を食べるか食べないかで5年の寿命の差があるといいましたが、全員が毎日魚を食べている漁村部と、毎日食べるのは約1割という農村部とでは漁村部の方が血管が柔らかいといえます。

1989年、イギリスで、心筋梗塞における魚食の効果に関する研究発表がありました。これは先程の疫学調査ではなく、2年間にわたって行われた介入試験の結果報告です。介入試験というのは被験者に実際に魚（魚が食べられない人には魚油のカプセル）を食べてもらうもので、疫学調査よりも遙に証明力があります。

被験者は心筋梗塞を起こしている2000名の男性で、ランダムに魚を食べる人と食べない人を半分に分けてグループをつくり、2年間指導しました。これだけではたいした研究ではありませんが、同時に、二つのグループをゴチャゴチャにして半分にはリノール酸を増やして牛豚の油である飽和脂肪酸を減らし、もう半分にはそのまま何もませんでした。

さらに、再び両方のグループをゴチャゴチャにして半分は食物繊維を増やしもう半分はそのままにしました。

グループを整理してみると、

	魚を食べる	リノール酸増	食物繊維増
グループ1	○	○	○
” 2	○	○	—
” 3	○	—	○
” 4	○	—	—
” 5	—	○	○
” 6	—	○	—
” 7	—	—	○
” 8	—	—	—

と8つのグループに分かれます。

結果だけ申し上げますと、リノール酸も食物繊維も死亡率にはほとんど関係なく、ただ、魚を食べていたかいなかったかだけに統計的に意味のある差ができました。魚を食べていたグループのほうが29%も死亡率が低かったのです。

リノール酸の摂取量は現状（1日12g）の半分以下に

ここでもう少しリノール酸の話をしていきます。なぜなら、皆さん植物油が危険だということをおぼろげに感じているから。しかも、リノール酸は良い油だと思っている方が多いので、正反対なんだということをおぼろげに理解してください。

先ほどお話ししましたが、リノール酸という油が肝臓で代謝されてアラキドン酸になり、最終的にいろいろなエイコサノイド（ホルモン）になります。この中のトロンボキサンは動脈硬化や血栓を引き起こす原因となり、ロイコトリエンはアレルギー性疾患の原因に、また、プロスタグランジンは炎症を起こし、さらにはガンになりやすくなります。

大昔、リノール酸は善玉でした。なぜかということ、出血を止めるのに効果があったから。人間や動物の進化の歴史は、いわば“出血と飢餓との戦い”で、傷を負ったときにいかに早く血を止めるかが、それこそ生死にかかわる大問題だったのです。ですから人間や動物の体には血を固めるためのすさまじい進化の歴史があります。

いま、私たちの体は、出血した血をすぐに固めてかさぶたを作り、血を止めることができます。これは実は体が進化を遂げたからなのです。しかし、現代社会では内紛や戦時下にある国を除いては、日常的に怪我をし出血することはそう滅多にありません。ということは、血を固まらせるという作用をこれ以上必要としない生活環境になってきたのです。

もうひとつの飢餓との戦いでも、やはり人間の体に進化をもたらしました。とにかく飢餓の中をいかに生き残るか。それには、食べ物があるときに食べられるだけ食べて、余ったエネルギーは皮下に蓄える。そしてエネルギーはできるだけ放出しない。数万年前はそういう人達だけが生き残ったのです。

貯蓄型、節約型に進化した人間の体が今どうなったか。食べたものはできるだけ皮下に蓄えるから肥満になり、できるだけエネルギーを消費しないから糖尿病になりました。

さて、外に流れた血を固めて止めるということは、いいかえれば血管の中の血も固まる可能性があるということです。血管の中で血液が固まるとどうなるか、血栓が起これば心筋梗塞の危険にみまわれます。

このとき悪さをするのがリノール酸を原料としてできたトロンボキサンという物質ですが、EPAやDHAなどn-3系列の脂肪酸があるとその活動を抑えることができます。

リノール酸は皮下に蓄えられます。それも、昔、リノール酸を善玉とした理

由のひとつです。しかし、数千年前の人間は30歳まで生きるのがやっとでしたから、ガンや動脈硬化の心配をせずにすみました。ところが今は、70歳、80歳と長生きするので、ガンや心筋梗塞、脳梗塞が怖い病気になったのです。

もうひとつ、リノール酸には寄生虫との問題があります。昔は、体の中の重要な臓器に寄生虫がやってきたときに、リノール酸からできるロイコトリエン、プロスタグランジン、トロンボキサンなどの物質が細胞を刺激し、活性酸素という、人間の体にとって危険なものを作り、瞬間的に臓器に炎症を起こさせることによって寄生虫を排除しました。炎症がある場所は寄生虫にとっても居づらいわけです。

ところが、今、私達の体内に寄生虫がいなくなってしまうかというところ、体の中に入って来た花粉や家ダニなどを寄生虫と間違えて、ロイコトリエンなどを作り攻撃してしまうのです。それがアレルギーやアトピーです。だから、アレルギーの元々の原因はリノール酸を原料とした代謝物で、魚の油はその働きにブレーキをかけてくれます。

今年4月に、アメリカの国立衛生研究所で開かれた国際脂肪酸・脂質学会の部会には、世界各国から50人の研究者が集まりました。そこで合意した点は、リノール酸は危険だから減らそうということでした。適正摂取量の数値もあげられました。1日4.4gが適量で、上限はせいぜい6gまで。現在の日本人の平均摂取量が12gですからその2分の1以下です。ところが、非常に残念なことに、最近改定された日本人の栄養所要量をみると、現状維持の12gになっています。これは、栄養所要量を定めるグループに、新しい栄養学を研究している人達が入れないためで、世界の最新の情報から遅れてしまったのです。

本日ご来会の皆さんは、植物油はできるだけ抑えて魚を食べることを心掛けていただきたいと思います。

人間の頭脳の働きや心理面におけるDHAの働き

n-3系列の脂肪酸には α -リノレン酸、EPA、DHAなどがありますが、中でもDHAにはリノール酸の代謝作用を抑える働きのほかに、頭の中の細胞膜の構成成分という重要な働きがあります。DHAが十分脳細胞膜に入っている場合と入っていない場合では、脳の働きに差がでてくる可能性があります。DHAを添加しないミルクでは、生後4ヵ月の時点で、すでに知能に差があるという報告があります。

また、8歳児のデータもあります。乳児のとき人工乳にDHAがない場合と

母乳の場合では、やはり知能指数に差がでると報告されています。DHAが十分に入っているミルクは、ほとんど母乳と同じ程度の知能になります。

そこで、私達はDHAを与えたときに、ヒトは心理学的にも変わるのではないかと推定して、大学生を使っての研究に着手しました。

心理学的に何を調べたかという、人間が持っている“敵意性”の変化です。敵意性というのは、分かりやすくいえば“怒りっぽさ”です。この怒りっぽさは、実はいろいろな病気と関係があって、心筋梗塞、ガン、アレルギー、あるいは高血圧や脳卒中などの危険因子となっています。

私達は研究の方法に二重盲検法を選びました。二重盲検法は、現在、最も科学的といわれる精度の高い研究方法だからです。

どういう方法かという、被験者をDHAを食べてもらうグループ（DHA群）と大豆油を食べてもらうグループ（DHA群に対する対照群）の二つに分けます。そのとき、同じ形の同じ匂いのカプセルを使うわけですが、私の手元にくるのは表に番号が書かれただけのビンで、中に入っているカプセルがDHAなのか大豆油なのかは分かりません。

つまり、あがってきたデータをみる研究者自身、被験者の誰に何を与えたのか分からないようにするためです。私はただ研究に協力してくれる学生達にビンを渡すだけで、当然、学生達もどっちを貰ったか分かりません。研究者も分からない、被験者も分からない。だから二重盲検法というのです。これはどちらにも偏見を持たせないため、ヒトで研究する場合、最も科学的な方法です。

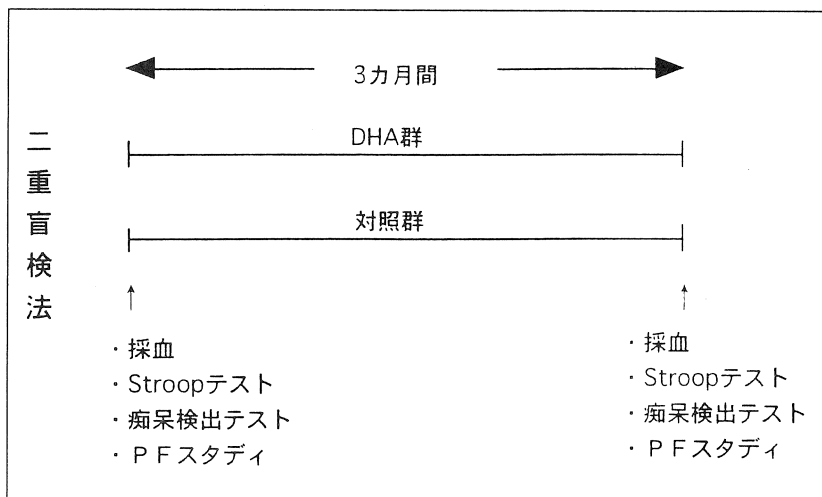
学生には3ヵ月にわたってカプセルを飲んでもらいました。そして投与前と投与期間終了後で、いろいろなテストを行い、データをとりました（次ページ図4）。

テストはストロープテスト、痴呆検出テスト、PFスタディーの3種類です。

ストロープテストというのは、紫色で“青”と書いて、色は何色ですかと問います。青と書かれていても色を聞いているので“紫”が正解です、また、青色で“グリーン”と書かれたものを見せて意味はと問います。“緑”が正解。ここまでは簡単ですが、次に、色と聞かれたら意味を、意味はと聞かれたら色を答えさせます。つまり答えを逆にするわけです。黄色で“ブラック”と書いて意味は？ 意味とは色のことですから“黄色”が正解です。瞬間的な認識力の問題ですが、これを何十問もだして10分間に何問正解したか、投与期間の前後で調べます。

痴呆検出テストというのは、幾つかの短文を書いた紙を被験者に渡してそれぞれに質問をします。問題は簡単で、小学生でもできます。でも、40歳以上の

図4 二重盲検法での期間とテスト



方のご遠慮ください、できなくてがっかりしますから。

ひとつやってみましょう。では問題です、登場人物は何人でしょう。

これを下の短文をみて答えてください。ただし、短文を読みながら全ての漢字と「か」「が」「も」の文字に○をつけてください。

むかしむかしあるところにおじいさんとおばあさんがいましたおじいさんはやまにしばかりにたけやぶでかぐやひめをみつけましたおばあさんは川でももたらうにあいました

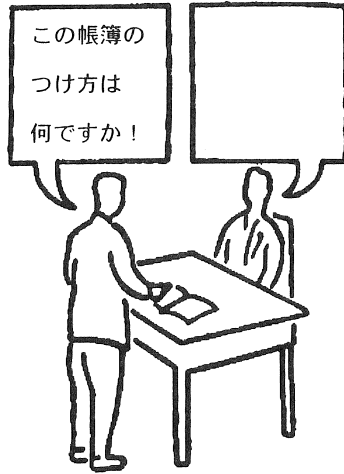
さあ、答えはなんですか。皆さん、問題を覚えていますか。問題は登場人物の数です。

こういう問題を次から次とたくさんだします。要は、問題に集中できるかどうかです。

3番目のP Fスタディは心理テストです。Pはピクチャー、Fはフラストレーションの略です。まず、被験者に次ページのような絵を見せます。

部下が上司に、「この帳簿のつけ方は何ですか！」と叱られています。これを被験者に見せて、自分だったら何と答えるか、最初に浮かんだ言葉を書きなさいといひます。考えさせてはいけません、瞬間的に書かせるのです。考える時間を与えると常識的、優等生的な答えになるからです。そして、その言葉に

P-F Study
例



よって被験者の“敵意性”をみます。

例えば、私が最初に浮かんだのは、情けないことに「ああ、すみません」でした。こういう人間は敵意性からいうとゼロです。では、どういう答え方をすると敵意性があると診断されるかという、「うるせー、こんな会社もう辞めようと思ったんだ」とか、もう少しおとなしければ、「あなたがこんなにたくさん仕事をさせるからできなかったんです」とか言って相手を非難する。

こういう絵が24枚くらいあって、それぞれ瞬間的に言葉を書かせます。

魚の油はストレスを抑制する

次ページ図5はストローテスト（色の認識度）の結果です。DHAを食べた学生達（DHA群）も大豆油を食べた学生達（対照群）も、どちらも同じように投与後のほうが成績があがりました。

二重盲検法では必ず対照群を使います。なぜなら、右側のDHA群だけみていたのでは、「投与前よりも投与後のほうがよくなった。やはりDHAは頭の働きに効果があるのだ」という嘘の結果を導き出してしまうからです。ところが対照群の大豆油でも同じように成績があがったということは、飲んだカプセルには関係なく、ただ単に、テストに馴れただけなのです。

痴呆検出テストも同じ結果がでました（図6）。どちらのグループも投与後のほうが正解率はあがりました。これもテストに馴れただけで、飲んだカプセ

図5 ストロープテスト

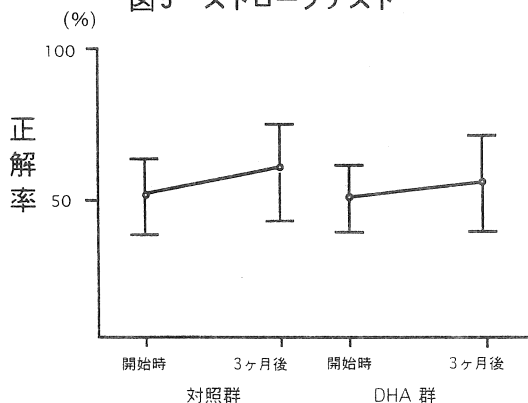
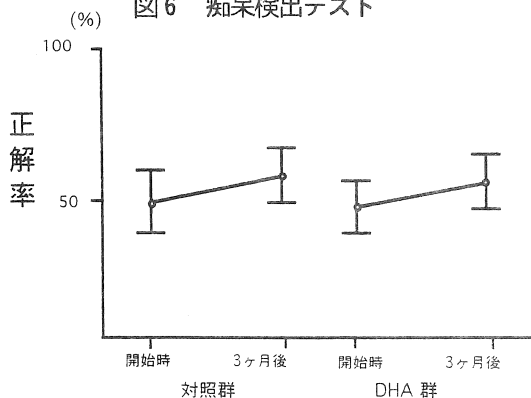


図6 痴呆検出テスト

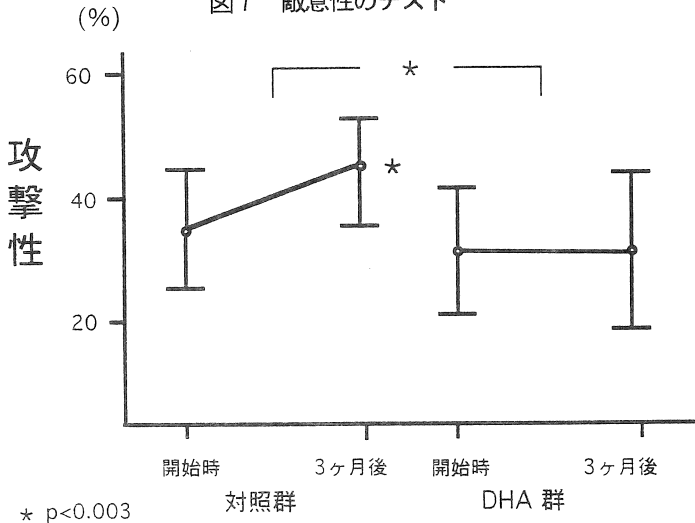


ルには関係なかったのです。

ところが敵意性をみた心理テストはどうでしょう(図7)。対照群とDHA群では明らかな違いがみられます。これは統計的にみて偶然とは思えない差です。これを見たとき、実は私、少し困りました。私の推測ではDHA群は投与後は下がるだろうが、対照群は変わらないのではないかと考えていました。それが、明らかに対照群の敵意性が上がっているのです。なぜだろうと原因を調べたところ調査した時期に問題がありました。

投与開始の9月初旬は、まだ夏休み期間中ののんびりした時期でした。それにひきかえ、投与終了の12月は、私ども富山医科薬科大学の学生達にとっては、これから2ヵ月間にわたって行われる厳しい進級試験の数日前だったのです。

図7 敵意性のテスト



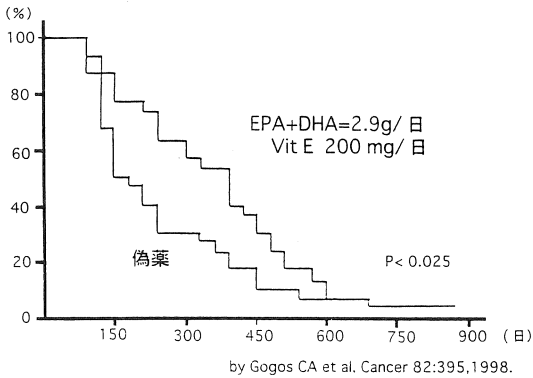
この時期、特に医学部の4年生には、試験のストレスからいろいろな症状がでてきます。円形脱毛症、十二指腸潰瘍、アトピー、ひどい場合は躁鬱病になります。おまけに、最初のテストが最も落第率の高い病理学で、この難関が数日後に控えていました。そんなとき、「この帳簿のつけ方は何ですか!」などと聞かれたら、「うるせー、こっちはそれどころじゃないんだ!」ということになります。だから敵意性が上がってしまったのだと思います。ところが驚いたことに、DHAを3ヵ月間飲んでると、その程度のストレスには耐えられてしまうのです。

ガンの抑制と胎児の脳の発育

次ページ図8は、末期ガンの患者さんに対する魚の油の研究です。魚油を与えた患者さんの生存曲線と対照群であるオリーブ油を与えた患者さんの生存曲線をみたものです。対照群の生存率が50%を切るのは150日ちょっとですが、魚油のグループはだいたい400日と倍以上の差ができました。

ガンの末期では、悪液質といって、食事ができなくなりどんどん痩せていくことがあります。原因は一種のホルモンですが、EPAやDHAはそれを抑える働きがあります。その結果、末期ガンの人でも少しは食事ができるため、全く食べられない人よりも長生きするのです。

図8 魚油によるガン患者の生存率の改善



また、イギリスの研究では、魚を食べないと1回の出産で、母体の脳の実質が3%減少するという報告があります。その原因は定かではありませんが、胎児の脳の発育に欠かせないDHAを、母体の脳から供給するからではないかといわれています。

赤ちゃんは頭でっかちです。出産の時に頭さえ通ればあとはラクに生まれます。頭がなぜ大きいかというと脳みそがいっぱい詰まっているからです。この脳にかなりの量のDHAが入っています。そのDHAを胎児は母体の胎盤を通して受け取ります。

日本人のようによく魚を食べていれば、DHAは血液の中に入り胎盤を通して胎児に届きます。しかし、魚を食べていないと母体の中を切り崩して届けなければなりません。どこを切り崩すか。それは、いちばんDHAが含まれている脳です。ですから、妊娠中も出産後の授乳期でも、どんどん母親の脳からDHAが減っていくわけで、そう考えると3%という数値もうなずけます。

また、妊娠・出産中のDHAの欠乏は、産褥期の鬱病などにも関係があるのではないかとされています。その根拠は、DHAの摂取量と鬱病の発生頻度が相関するからです。DHAの摂取量が少ない国の方が鬱病が多いのです。

最後になりましたが、本日ご来場の皆様には、どうか私の話を参考になさって、リノール酸に対する考え方を改めていただきたいと思います。そして、そのプレーキ役として、DHAやEPAをたくさん含んだ魚を、どんどん食生活の中にとりいれていただければ幸いです。

☆この講演は平成11年10月18日に石垣記念ホールで行われたものです。

< 付 1 >

水産物消費改善総合対策事業について

1. 趣旨

- (1) 最近の水産物の消費動向を見ると、健康志向が進むとともに有職女性の増加等を反映した簡便化志向が見られる等、消費者ニーズは多様なものとなっている。また、海なし県の消費が少ない等、地域差が見られるとともに、小中学生の魚離れも指摘されている。
- (2) 動物性タンパク質供給量に占める水産物の割合は、昭和40年には約6割であったが、食生活の洋風化等に伴い平成4年には約4割に減少しており、水産物と競合関係にある畜肉と比べて割安感がなくなった現状においては、水産物の消費拡大について適切な対策を講じないと、水産物の消費の減退を招く恐れがある。
- (3) また、輸入水産物も増加しており、このような状況に対応して、国産水産物を中心とした水産物の消費拡大のためには水産物の利用動向の把握分析を行うとともに、若年層対策、水産物の有用性の普及啓発、地域水産物の情報収集提供の推進、専門家の理解の促進等を図る必要がある。
- (4) 更に、栄養士、保健婦等を対象に作成した普及資器材をもとに、これら専門家に対し、魚の生態、季節性、栄養特性、調理方法等に関する講習会を行い、水産物についての正しい知識を普及し、もって国産水産物の消費拡大を図る。

2. 事業内容

- (1) 消費拡大のための調査、方策の検討
- (2) 専門家及び一般向け普及啓発
- (3) 地域水産物の情報収集、提供
- (4) 若年層を対象とした消費拡大対策
- (5) 多獲性魚利用拡大対策、水産缶詰等の海外市場開拓
- (6) 産地市場における危害の調査・分析・特定

3. 事業実施主体

(社)大日本水産会、全国漁業協同組合連合会

4. 事業実施期間

平成7年度～平成11年度

5. 平成11年度予算額

100,784千円

6. 補助率

定額、1/2

< 付 2 >

平成11年度 水産物消費改善総合対策事業

(金額は事業実施時点のもの)

社団法人 大日本水産会

1. 水産物消費拡大基礎事業 11,504,000円

(1) 消費利用動向調査事業

6,980,000円(定額)

*変化する消費者ニーズ等を的確に把握し、水産物の活用促進に資するため水産物の消費動向、販売動向、利用意識等に関し調査分析提供を行うことを目的とする。

*調査企画委員会(委員数5名)を設置し、調査テーマ、調査対象、調査方法等について検討。

*平成11年度は調査対象を乳幼児とし、ベビーフードにおける魚介類の利用の調査を行う事により、水産品に関する食の好み、認知度、他食材との比較、水産物の位置づけ等を確認し、今後の具体的施策の方向を見出すことを課題としている。

(2) 消費拡大方策検討事業

80,000円(定額)

*生産者、流通関係者、消費者、学識経験者等による消費拡大方策検討会(委員数5名)を設置し、消費利用動向調査で得られた結論を基に水産物の消費拡大を図る上での当面する課題及び食生活での活用を促進するための方策の検討を行うことを目的とする。本年度は、消費利用動向調査の対象が乳

幼児であり、ベビーフードにおける水産物の消費拡大に関して調査研究を行う。

(3) 流通合理化検討事業

3, 0 0 0, 0 0 0 円 (定額)

*生産者、流通関係、学識経験者等による流通合理化検討会(委員数6名)を設置し、水産物流通の合理化を図る上での問題点の把握及びその解決のための調査を行う。具体的な調査の実施は調査会社に委託する。

(4) 担当者育成強化事業

1, 4 4 4, 0 0 0 円 (1/2以内)

*各地域における水産物消費拡大活動を支援するため、当該活動の担当者を対象に、その育成強化を目的とした検討会の開催等を行う。

*当該講演会・検討会の開催。講演録及び資料は後日、取りまとめの上配布。

2. 水産物普及啓発事業 1 0, 6 6 6, 0 0 0 円

(1) 特定対象普及啓発事業

6, 1 6 6, 0 0 0 円 (定額)

*特定対象者(医療関係者、栄養士、保健婦等の専門家)が一般消費者に対して行う食事指導等の場合の参考資料として栄養特性等水産物に関する知見を与えるための普及資器材を作成する。

*企画委員会(委員数5名)を設置し、普及資器材の作成に関して必要な事項及び当該普及資器材が効果的に使用されるための方策の検討を行う。

*平成11年度も制作会社を（株）協和企画とし、全国の栄養指導を行う学校医（特定対象者）を対象に、『魚の栄養事典』を作成・配布する。

(2) 不特定対象普及啓発事業

4, 500, 000円

ア. 普及資器材作成事業（該当なし：全漁連）

イ. 相談提供事業

4, 500, 000円（定額）

*相談窓口を設置し、一般消費者等からの相談への対応及び資料の作成・提供を行うとともに、シンポジウムの開催等により情報提供を行う。

*相談内容・・・小学校5年生の副読本に、大日本水産会の名称登録を行ったことにより、小学5年生を中心に子供たちからの水産業に関する問い合わせが多い（手紙300通、電話350件）。その他一般、マスコミより問い合わせ多数。

*シンポジウムの開催・・・10月28日に銀座ガスホールで、『頭健康・体の健康』と題したシンポジウムを開催し、講演録を作成、配布する。

3. シーフード情報ネットワーク事業 7, 000, 000円

(1) シーフード情報収集・蓄積・分析・提供事業

（該当なし：全漁連）

(2) 地域水産物全国交流普及事業：

7, 000, 000円（1/2以内）

*各地域水産物の全国的な普及を推進するため、水産物に対

する消費者ニーズ及び業務需要を把握するとともに、需要の開拓、流通経路の確立を図るため、各地域の水産加工品等を集め、その市場性の評価検討を行う。全国水産加工業協同組合連合会に事業を委託する。

4. 若年層緊急特別対策事業 11,600,000円

(1) 学校給食対策協議会事業

650,000円(定額)

*学校給食における水産物の利用を促進するため、水産物を活用した学校給食用メニューの開発及び学校給食関係者に対する水産物の栄養特性等についての情報提供を行う事を目的とし、学校給食対策協議会(委員数8名)を設置し、学校給食における水産物の利用を促進する上での問題点の把握及びその解決のための方策の検討を行うとともに、学校給食用メニュー選定のためのメニュー選定委員会(委員数20名)を構成し、必要な事項について協議する。

(2) 学校給食メニュー開発事業

6,200,000円(1/2以内)

*平成11年度は実施会社を(株)N&Sプロモーションとし、(社)全国学校栄養士協議会との連携により実行する。
*メニュー集は全国の学校給食栄養士に配布する。

(3) 移動ふれあい交流事業

4,750,000円(定額)

*これまで水産物に接することの少なかった地域や若い世代

に対して、水産物の栄養特性や調理方法等水産物に関する情報を提供するため、学校、イベント会場、団地等、人の集まる場所において、おさかなシャトル号を運用し、おさかな教室を開催する。

*事業の実施にあたっては、香川県漁業協同組合連合会に委託し、全国4カ所における小学校を中心とした「おさかな教室」を開催した。

5. 水産物消費拡大特別対策事業 7, 600, 000円

(1) 多獲性魚利用拡大推進事業(該当なし:全漁連)

(2) 新市場開拓推進事業

7, 600, 000円(1/2以内)

*水産加工品や水産缶詰について、海外での市場開拓を推進するため、試食展示会の開催等の普及啓発を行った。

*事業の実施にあたっては、水産加工品グループは北海道漁業協同組合連合会、水産缶詰グループは日本水産缶詰輸出水産業組合に委託し、平成11年度内に水産加工品グループは中国(上海)、水産缶詰グループはミクロネシア連邦(ポンペイ)でそれぞれ試食展示会及び市場調査等を行った。

6. 産地市場危害特定事業 25, 000, 000円

(合計額: 73, 370, 000円)

平成11年度 民間事業 (参考)

1. キャンペーン事業 8, 450, 000円
 - (1) 魚食普及講演会の開催
 - *一般、生徒、栄養士等を対象に年間約20回開催。
 - (2) フォーラムの開催
 - *10月28日(木)銀座ガスホールにおいて『頭健康・体の健康』と題するトークショーを開催。
 - (3) インターネット・ホームページの運営
 - *<http://web.infoweb.ne.jp/fishworld/>
 - *Eメール
 - ・ jfish@mb.infoweb.ne.jp
2. 広報事業 15, 585, 555円
 - *会報の「SAKANA」 年度内2回発行
 - *おさかな相談室の運営
3. 関連事業協力費 900, 000円
 - *講師研修、地域活動への協賛、魚食普及功績者表彰(平成11年11月25日)等。
4. 国庫補助協力費 200, 000円
5. 管理運営費 8, 940, 000円
 - *会議費、旅費、人件費、事務費等。

(合計額: 34, 075, 555円)

< 付 3 >

平成11年度 水産物消費改善総合対策事業

全国漁業協同組合連合会（中央シーフードセンター）

1. 水産物消費拡大基礎事業

942,000円（1/2）

全国の地方ステーション・魚食普及担当者を対象に研修会を実施、議事録にまとめ配布。

（1）日時：2000年1月20日（木）～21日（金）

（2）場所：横浜市メルパルク・焼津小川流通鮮魚センター

（3）内容：事業説明と意見交換及び視察

・説明「JAS法改正に伴う水産物表示について」

水産庁水産流通課企画係長 古俣明伸

・意見交換「水産物消費改善推進事業の展開（案）について」

・視察「焼津小川流通鮮魚センター」

2. 水産物普及啓発事業

33,800,000円（定額・1/2）

（1）不特定対象普及資器材作成

8,947,000円（定額）

全国のST等へ配布するためのCD-ROMを作成・配布。

①企画作成委員会 年度中3回・6名（学識経験者等）

②CD-ROM作成

（2）水産物普及啓発支援

19,464,000円(1/2)

地方ステーションと連携し、栄養士、調理師、子供、学生等を対象に、魚介藻類の生態・季節性・栄養特性等に関する講習会と魚介藻類を利用した調理実習会を開催。また、参加者アンケート報告書と調理実習メニュー集を発行。

①開催時期：平成11年4月1日～平成12年2月28日

②開催場所：全国各地域

(3) 衛生管理普及啓発

5,389,000円(定額)

産地水産物市場を対象に、衛生管理普及啓発のためのOHPを作成すると共に、マニュアルに基づく研修会を実施。

①企画委員会 年度中3回・6名

②衛生管理OHPの作成

③衛生管理普及啓発研修会の開催 年度中・25カ所

3. シーフード情報ネットワーク事業

12,584,000円(定額・1/2)

産地情報を収集・分析し、量販店、外食産業、生協、鮮魚小売店等に提供。併せて、情報活用動向調査を実施し、報告書にまとめた。

(1) 情報企画委員会 年3回・8名(学識経験者等)

(2) 冊子「シーフードシーズンニュース」

A4判・4色刷り・12頁 1回8,500部×4回

①配布対象：量販店・生協・外食産業・水産物小売商等

②内容：旬のさかな、地魚、磯魚、水産加工品、シーフ

ードクッキング等

- (3) 活用動向調査 「シーフードシーズンニュース」の活用状況を確認すると共に、今後、さらに国内水産物の販売促進を図るにあたり、必要な情報等を調査し、報告書としてとりまとめた。

4. 水産物消費拡大特別対策事業

4, 410, 000円(1/2)

いわし食用化協会に委託し、消費動向調査や新商品の開発や改善のための技術開発等を行った。

- (1) 事業実施検討委員会の開催
- (2) 利用状況実態把握調査
- (3) 多獲性魚加工利用技術開発及び普及

< 付 4 >

平成11年度

中央団体の消費拡大事業及び
都道府県の魚食普及事業の現状報告

中央団体名 担当者の所属役職名	日本鯉鮪漁業協同組合連合会 販売部 販売企画課 調査役 本間 恵												
平成11年度予算規模	80,500,000円												
平成11年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<table border="0"> <tr> <td data-bbox="349 389 728 414"> 1. 販売促進事業 </td> <td data-bbox="728 389 902 414" style="text-align: right;"> 33,000千円 </td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="349 443 973 587"> ①生産者直売会等支援協力 本会並びに各県組合が生産者直売会等を実施。 ②販売促進資材作成・配布 ポスター、パンフレット等の販促資材を作成し、生産者直売会等に活用。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="349 619 728 644"> 2. かつお消費対策 </td> <td data-bbox="728 619 902 644" style="text-align: right;"> 7,500千円 </td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="349 673 973 762"> ①特約販売先支援活動 ②新製品開発 ③マスメディアを活用した商品特性の差別化PR </td> </tr> <tr> <td data-bbox="349 794 728 820"> 3. まぐろ消費対策 </td> <td data-bbox="728 794 902 820" style="text-align: right;"> 40,000千円 </td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="349 849 973 1018"> ①料理講習会等の実施 関東甲信越の生協組合等に解凍・料理方法の講習等を実施。 ②冷凍ストックの活用等による販路の拡大 冷凍ストックを一定期間無償貸与し、高品質製品の販売を実施。 ③その他 </td> </tr> </table>	1. 販売促進事業	33,000千円	①生産者直売会等支援協力 本会並びに各県組合が生産者直売会等を実施。 ②販売促進資材作成・配布 ポスター、パンフレット等の販促資材を作成し、生産者直売会等に活用。		2. かつお消費対策	7,500千円	①特約販売先支援活動 ②新製品開発 ③マスメディアを活用した商品特性の差別化PR		3. まぐろ消費対策	40,000千円	①料理講習会等の実施 関東甲信越の生協組合等に解凍・料理方法の講習等を実施。 ②冷凍ストックの活用等による販路の拡大 冷凍ストックを一定期間無償貸与し、高品質製品の販売を実施。 ③その他	
1. 販売促進事業	33,000千円												
①生産者直売会等支援協力 本会並びに各県組合が生産者直売会等を実施。 ②販売促進資材作成・配布 ポスター、パンフレット等の販促資材を作成し、生産者直売会等に活用。													
2. かつお消費対策	7,500千円												
①特約販売先支援活動 ②新製品開発 ③マスメディアを活用した商品特性の差別化PR													
3. まぐろ消費対策	40,000千円												
①料理講習会等の実施 関東甲信越の生協組合等に解凍・料理方法の講習等を実施。 ②冷凍ストックの活用等による販路の拡大 冷凍ストックを一定期間無償貸与し、高品質製品の販売を実施。 ③その他													

中央団体名 担当者の所属役職名	全国蒲鉾水産加工業協同組合連合会
平成11年度予算規模	30,000,000 予定
平成11年度事業概要	
<p>1. 全国かまぼこ祭り～第52回全国蒲鉾品評会～ 全国のかまぼこを一堂に展示し、消費者のかまぼこに対する関心を高めるとともにかまぼこ業者に対しては、品評会により農林水産大臣賞を授与するなどにより、技術の向上に資することを目的としている。 そのため、かまぼこ製品の展示の他、機械類、資材も展示すると同時に、試食会を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会場：ヒルトン小樽（毎年全国各地持ち回り開催） ・開催期間：平成11年10月14～16日（3日間） ・事業費：15,000千円（予定） 	
<p>2. 消費拡大のための広報活動 「マスコミと消費者に水産練製品の魅力を知ってもらおう」というテーマのもと、年間を通じた広報活動に取り組む。</p> <p>(1) 第2回水産練製品料理アイデア大賞の実施 家庭で手軽にできる水産練製品を使った料理レシピを一般公募 ・募集方法：パブリシティ活動による告知及び募集チラシの作成配布 ・実施期間：平成11年7月1日～9月13日を募集期間とし、10月中旬頃受賞者発表 ・賞品：◎一般の部 大賞（1名）賞金20万円、優秀賞（2名）賞金10万円 入賞（10名）水産練製品詰合せ ◎ジュニアの部（中学生以下） 大賞（1名）賞金20万円、優秀賞（2名）賞金10万円 入賞（10名）水産練製品詰合せ</p> <p>(2) マスコミ懇親会の開催 マスコミ各担当者との交流を図り、記事掲載を推進するため料理アイデア大賞授賞式に併せ懇親会を実施。</p> <p>(3) マスコミ向け広報資料の配布 料理アイデア大賞のレシピや水産練製品を紹介・解説した資料を配布し、マスコミでの露出を図る。</p> <p>(4) 店頭配布用パンフレットの作成 消費者に対する理解促進、利用機会の拡大を図るため、レシピや水産練製品を紹介したパンフレットを作成。</p> <p>(5) テレビ番組タイアップの実施 消費者に関心の高いテレビ料理番組の中で、水産練製品を使った料理を紹介。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業費：15,000千円（予定） 	

都道府県・担当部署 担当者の役職氏名	北海道水産林務部水産経営課流通係及び加工係								
平成11年度予算規模 補助金・民間総計額	<table border="0"> <tr> <td>国庫補助金</td> <td>17,995,000円</td> </tr> <tr> <td>都・道・府・県費</td> <td>19,316,000円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金(補助金)</td> <td>34,165,000円</td> </tr> <tr> <td>(合計額)</td> <td>71,476,000円</td> </tr> </table>	国庫補助金	17,995,000円	都・道・府・県費	19,316,000円	民間負担金(補助金)	34,165,000円	(合計額)	71,476,000円
国庫補助金	17,995,000円								
都・道・府・県費	19,316,000円								
民間負担金(補助金)	34,165,000円								
(合計額)	71,476,000円								
平成11年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<p>○水産物産地流通機能強化事業(補助率1/2 18,941千円)</p> <p>複数の漁協の協力による、産地自らが行う流通加工への取り組みのために必要な指導者の育成や、産地市場の統合・機能分担、地域水産物の流通加工の高度化・利用促進等に対し支援する。 平成11年度実施地域：日高地域、十勝地域、檜山・渡島西部地域、渡島噴火湾南部地域、釧路地域、留萌地域</p> <p>○秋サケ流通加工対策事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「北海道、旬の秋サケ直送の店」事業 (補助率1/2 10,800千円、直営分3,400千円) 秋サケになじみの薄い西日本地区の量販店において、「北海道、旬の秋サケ直送の店」を開催し、産地漁協自ら参加して秋サケの販路拡大及びPRを行う。 平成11年度開催箇所 大阪市、広島市、福岡市 <p>○北のさかな消費流通ステップアップ事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水産加工食品消費拡大事業(補助率1/2 900千円) 近年、道産水産加工業の出荷額は減少を続け、中小零細の多い水産加工業の経営を直撃しているため、道外販路開拓による消費拡大を図る(道産水産加工品の宣伝販売事業の実施)ことに対し支援する。 ・浜の味消費拡大宣伝事業(補助率1/3 1,200千円) 消費地で知られていないために大きな消費に結びつかない水産物について、加工業界への普及及び消費地への直接宣伝を行い、道産水産物の消費拡大を図ることに対し、支援する。 ・大規模消費流通開拓事業(補助率1/2 2,070千円) 本道水産物の主要魚種である秋サケ、ホタテ等の業務向けの需要拡大を図るため、外食産業との提携や新メニューの開発普及により、新たな販路開拓を積極的に取り進め、一層の需要拡大を図ることを目的としたフェアの開催や調理専門学校でのメニュー開発及びセミナーの開催に対して支援する。 								

<p>都道府県・担当部署 担当者の役職氏名</p>	<p>青森県水産部漁業振興課流通・ほたて振興室 主事 鹿内 勉</p>
<p>平成11年度予算規模 補助金・民間総計額</p>	<p>国庫補助金 0円 都・道・府・県費 16,000,000円 民間負担金 32,000,000円 (合計額) (48,000,000円)</p>
<p>平成11年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算</p>	<p>・青森ホタテ消費宣伝パワーアップ事業</p> <p>事業主体：青森県ほたて流通振興協会 事業費：48,000,000円 補助率：1/3</p> <p>事業概要</p> <p>(1) 広告宣伝事業 (34,000千円) ポスター、マスメディア等による宣伝 ねぶた祭における広告 「ホタテの日」におけるイベント宣伝 広告看板による宣伝 県内、関西圏におけるテレビコマーシャル放映</p> <p>(2) 消費拡大対策事業 (14,000千円) 展示即売会、料理コンクール、東京ドームイベント等ホ タテ宣伝キャンペーン、市場調査、浅草旬の市販売促進 キャンペーン</p>

<p>都道府県・担当部署 担当者の役職氏名</p>	<p>岩手県林業水産部水産振興課 主任 横沢雄大</p>
<p>平成11年度予算規模 補助金・民間総計額</p>	<p>国庫補助金 0円 都・道・府・県費 7,635,000円 民間負担金 7,635,000円 (合計額) (15,270,000円)</p>
<p>平成11年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算</p>	<p>事業名称 秋さけ消費定着化事業</p> <p>事業概要 1. 11月11日「鮭の日」キャンペーン等の実施 2. 水産加工品コンクール、料理講習会等の実施 3. 商談会の実施</p> <p>事業主体 岩手県秋さけ消費拡大推進協議会</p> <p>補助率 1/2</p>

<p>都道府県・担当部署 発表者の役職氏名</p>	<p>宮城県産業経済部商業・流通課物産振興班 主任主査 笠原 恵介</p>
<p>平成11年度予算規模 補助金・民間総計額</p>	<p>都・道・府・県 費 22,790,000円 民間負担金 10,400,000円 (合計額) (33,190,000円)</p>
<p>平成11年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算</p>	<p>1. 地域水産物マーケティング促進事業 (1) 事業主体：漁連、漁協、水産加工連、加工団体等 (2) 事業費：30,190,000円 (県 21,290,000円 民間 8,900,000円) (3) 事業概要： ①宮城の水産物ブランド化事業（事業主体：漁連、事業費：6,000,000円） 「宮城産」の知名度がそれほど高くない県産主要水産物を対象に、小売店、外食産業等を通じて売り込み、消費地圏でのブランド化を図り販路とシェアを拡大する。 ○料理店、ホテル、量販店、生協、催事等と提携した県産水産物のPR、販売、イベントの実践 ○広報媒体を利用した県産水産物のPR ②地域産品特産物化事業（事業主体：漁協、商工、事業費：4,900,000円） 一般消費者からはなじみの薄い県内地域水産物を販売、イベント等を通じて地域の特産品として知名度向上、消費者への定着を図る。 ③水産加工品販路開拓事業（事業主体：水産加工連、事業費：3,400,000円） 商談会を通じて本県の優れた水産加工品を県内外の量販店、小売店等の仕入れ担当者に紹介し、販路、シェアの拡大を図る。 ④特定産品モニタリング事業（事業主体：県、事業費：7,350,000円） 一般消費者（みやぎシーフードモニター）への水産物に関するモニタリング調査により、県産水産物等の評価把握と関係者等への情報提供により、製品改良及び販売方法への活用を行う。 ○モニター（鮎100名、鯉120名、大鰻120名） ⑤マーケティング調査事業（事業主体：県、事業費：5,040,000円） マーケティングの効果的推進に資するため、県産主要水産物を対象とした流通実態及び市場評価の調査分析。 ⑥VCM情報提供事業（事業主体：水産加工研究会等、事業費：3,500,000円） 水産加工業者が任意グループをつくり、共同で販路開拓等の事業を行う。</p> <p>2. まぐろ流通開拓パイロット事業 (1) 事業主体：宮城県北部鯉鯨漁業協同組合 (2) 事業費：3,000千円（県1,500千円、民間1,500千円） (3) 事業概要： 生産者自らによる「食の情報提供」の手法による新たな販売ルートの開拓、産地ブランドイメージの定着を図る。</p>

都道府県・担当部署 担当者の役職氏名	秋田県農政部水産漁港課企画振興担当 技師 藤田 学
平成11年度予算規模 補助金・民間総計額	国庫補助金 10,006,000円 都・道・府・県費 9,106,000円 民間負担金 1,000,000円 (合計額) (20,112,000円)
平成11年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<p>1. 水産物高付加価値化技術開発事業 ホッケやアジ等の多獲性魚類を原料として、これまでにない加工食品を開発することにより、沿岸漁業の経営改善に資するとともに漁協の加工施設等の一層の有効利用を図る。</p> <p>事業費：2,712,000円(国庫補助1/2) (間接補助分は、国、県、事業主体がそれぞれ1/3づつ)</p> <p>2. 複合型資源管理型漁業促進対策事業 合理的な漁業管理による資源の回復・増大を図るための管理を実践するとともに、資源管理型漁業普及啓発のためのイベントを開催する。</p> <p>事業費：16,500,000円(国庫補助1/2) (うちイベント開催費 1,535千円)</p>

都道府県・担当部署 担当者の役職氏名	福島県農林水産部水産課漁業構造改善係 主査 斎藤 健								
平成11年度予算規模 補助金・民間総計額	<table> <tr> <td>国庫補助金</td> <td>2,612,000円</td> </tr> <tr> <td>都・道・府・県費</td> <td>1,462,000円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td>1,150,000円</td> </tr> <tr> <td>(合計額)</td> <td>(5,224,000円)</td> </tr> </table>	国庫補助金	2,612,000円	都・道・府・県費	1,462,000円	民間負担金	1,150,000円	(合計額)	(5,224,000円)
国庫補助金	2,612,000円								
都・道・府・県費	1,462,000円								
民間負担金	1,150,000円								
(合計額)	(5,224,000円)								
平成11年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<p>水産物流通対策費（水産物産地流通機能強化事業）</p> <table> <tr> <td>県事業</td> <td>624,000円</td> </tr> <tr> <td>補助事業</td> <td>3,450,000円</td> </tr> </table> <p>補助率：3／4（国1／2 県1／4）</p> <p>補助先：相馬市</p> <p>事業主体：相馬原釜漁協 磯部漁協</p>	県事業	624,000円	補助事業	3,450,000円				
県事業	624,000円								
補助事業	3,450,000円								

都道府県・担当部署 担当者の役職名	茨城県農林水産部漁政課企画調整担当 主任 海老沢良忠								
平成11年度予算規模 補助金・民間総計額	<table border="0"> <tr> <td>国庫補助金</td> <td>1,895,000円</td> </tr> <tr> <td>都・道・府・県費</td> <td>6,094,000円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td>42,749,000円</td> </tr> <tr> <td>(合計額)</td> <td>(50,738,000円)</td> </tr> </table>	国庫補助金	1,895,000円	都・道・府・県費	6,094,000円	民間負担金	42,749,000円	(合計額)	(50,738,000円)
国庫補助金	1,895,000円								
都・道・府・県費	6,094,000円								
民間負担金	42,749,000円								
(合計額)	(50,738,000円)								
平成11年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<p>1. 水産物消費拡大事業のうち</p> <p>(1) 魚食普及キャンペーン事業 「魚と健康の集い」を開催し、消費者に対する魚食普及の啓蒙を行い、全国水産加工品フェアに参加して、ニーズを把握する。 事業主体：茨城県水産物開発普及協会 事業費：3,200千円(県補助1,600千円：1/2)</p> <p>(2) 学校給食供給事業 茨城県漁連が自ら生産した多獲性魚の水産加工品を学校給食として供給し、学童期からの水産食品に対する理解と親しみを醸成し、消費の拡大に資する。 事業主体：茨城県漁業協同組合連合会 事業費：42,400千円(県補助4,000千円：定額)</p> <p>(3) 地域水産物有効利用推進事業 消費者や魚食普及指導者を対象に、いわし、さんま等の栄養特性、調理方法についての講習会やコンクールを開催し、魚食普及と地域水産物の有効利用を図る。 事業主体：茨城県水産物開発普及協会 事業費：1,280千円(県補助640千円：1/2)</p> <p>2. いばらぎの味イメージアップ事業のうち</p> <p>(1) 県のさかな消費拡大事業 県のさかな及び旬のさかな等を中心とした本県水産物の消費者に対するイメージ高揚を図るために、各種イベントにおいて展示、試食、販売を行う。 事業主体：茨城県水産物開発普及協会 事業費：574千円(県補助287千円：1/2)</p> <p>(2) 漁連ブランドまつり 県のさかな「ひらめ」、旬のさかな「鹿島灘はまぐり、かつお、ひらめ、あんこう」、淡水の魚「わかさぎ」が制定されたことに伴い、水産物のPRを図るため、全国漁連ブランド食品まつりを開催する。 事業主体：茨城県漁業協同組合連合会 事業費：646千円(県補助323千円：1/2)</p> <p>3. いばらぎの魚マーケティング事業 (水産物産地流通機能強化事業 国補) 鹿島灘はまぐりのブランド化と新たな流通チャンネルの開拓を行う。 事業主体：漁協、県 事業費：3,790千円 (国1,895、県360、漁協1,535)</p>								

都道府県・担当部署 担当者の役職氏名	千葉県水産部水産課生産流通推進班 技師 中川 真一								
平成11年度予算規模 補助金・民間総計額	<table border="0"> <tr> <td>国庫補助金</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>都・道・府・県費</td> <td>7,042,000円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td>460,000円</td> </tr> <tr> <td>(合計額)</td> <td>(7,502,000円)</td> </tr> </table>	国庫補助金	0円	都・道・府・県費	7,042,000円	民間負担金	460,000円	(合計額)	(7,502,000円)
国庫補助金	0円								
都・道・府・県費	7,042,000円								
民間負担金	460,000円								
(合計額)	(7,502,000円)								
平成11年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<p>事業名：県産水産物消費拡大総合対策事業</p> <p>事業概要：</p> <p>(1) 旬の県産水産物流通促進活動事業 事業主体：千葉県シーフード普及促進協議会 構成：県漁連、信漁連、加工連、共済組合、 漁船保険、振興基金、千葉魚食普及会 事業費：3,560千円 県補助金 1,780千円(1/2納) 事業主体 1,780千円 事業概要：シーフードマーケット幕張内において、県産水 産物の消費拡大のためのイベント企画運営</p> <p>(2) ちばのおさかな普及推進事業 事業主体：千葉県シーフード普及促進協議会 事業費：3,030千円 県補助金 1,515千円(補助率 1/2納) 事業主体 1,515千円 事業概要：料理教室の開催 学校給食への水産物の素材提供</p> <p>(3) 魚食文化フォーラム事業 事業主体：魚食文化フォーラム実行委員会 構成：県、千葉県シーフード普及促進協議会、鮮魚商 組合、消費者代表者等14名 事務局：水産課 事業費：4,207千円 県負担金 3,747千円 関係団体負担金 460千円</p> <p>事業概要</p> <p>①ちばのおいしい魚料理コンテスト(10月9日) あじ、まぐろを使用した家庭料理。調理時間90分以内 最優秀、優秀、奨励賞を表彰</p> <p>②魚料理小冊子の発行(1万5千部) コンテスト入賞作品及び県産水産物を使った地域色豊 かな魚料理を掲載</p> <p>③魚食文化フォーラムの開催 中央大会：11月18日(木) ホテルスプリングス幕張 参加人数：500名 講演：料理教室研究者・医師 展示：水産加工品、パネル 無料配布：水産加工品・魚料理小冊子 地方大会：千倉町(10月予定)</p>								

都道府県・担当部署 担当者の役職氏名	神奈川県環境農政水産課 主事 齊藤 仁司								
平成11年度予算規模 補助金・民間総計額	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">国庫補助金</td> <td style="text-align: right;">586,000円</td> </tr> <tr> <td>都・道・府・県費</td> <td style="text-align: right;">586,000円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td style="text-align: right;">0円</td> </tr> <tr> <td>(合計額)</td> <td style="text-align: right;">1,172,000円)</td> </tr> </table>	国庫補助金	586,000円	都・道・府・県費	586,000円	民間負担金	0円	(合計額)	1,172,000円)
国庫補助金	586,000円								
都・道・府・県費	586,000円								
民間負担金	0円								
(合計額)	1,172,000円)								
平成11年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<p>○少年少女水産講座（海の教室）国庫1/2</p> <p>ア 目的 小学5～6年生を対象に、海を理解してもらおうと共に漁業に関心をもってもらうため、水産講座を開催。</p> <p>イ 実施内容 「干物の作成」「魚の見分け方や分類方法」について、実演や講演により行った。 予算額：H11 306千円 H10 320千円 H9 290千円</p> <p>○漁村婦人はつらっライフ事業 国庫1/2</p> <p>ア 目的 漁村女性を対象に地元水産物の高付加価値化を図るために講習会及び実践活動を行い、漁業経営の向上、安定に役立てる。</p> <p>イ 実施内容 地域の水産物を利用した高付加価値商品の開発（カマスの梅酢しめ白菜合わせ、シイラのソテーなど他4品） 予算額：H11 なし H10 128千円 H9 55千円</p> <p>○漁業者研修会 国庫1/2</p> <p>1ア 目的 新漁獲対象種としてイバラヒゲの生態、漁獲方法等に関する研修を行い漁業経営の向上に役立てる。</p> <p>イ 実施内容 ・漁獲試験によって、ソコダラ類の中で、イバラヒゲが十分食料品となりうる事がわかり、試食会も行った。 ・今後の課題として。市場価値を付けること、魚食普及などがある。</p> <p>2ア 目的 しらす業者を対象に、生鮮シラスの新保存法等の研修を行いシラス製品の品質向上を図る。</p> <p>イ実施内容 「シラス保存加工技術について」は、シラス製品の品質向上を図るため保存段階における方法などについて講演を行った。 予算額：H11 866千円 H10 1,066千円</p>								

都道府県・担当部署 担当者の役職氏名	富山県農林水産部水産漁港課振興係 主任 白山 淳治								
平成11年度予算規模 補助金・民間総計額	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">国庫補助金</td> <td style="text-align: right;">0円</td> </tr> <tr> <td>都・道・府・県費</td> <td style="text-align: right;">3,000,000円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td style="text-align: right;">10,000,000円</td> </tr> <tr> <td>(合計額)</td> <td style="text-align: right;">(13,000,000円)</td> </tr> </table>	国庫補助金	0円	都・道・府・県費	3,000,000円	民間負担金	10,000,000円	(合計額)	(13,000,000円)
国庫補助金	0円								
都・道・府・県費	3,000,000円								
民間負担金	10,000,000円								
(合計額)	(13,000,000円)								
平成11年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<p>おさかな普及推進事業 (県単) 補助率1/4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業主体：富山県おさかな普及協議会 ・事業費：13,000,000円 ・事業内容：料理講習会の開催 広報活動（新聞、テレビ等） イベント等への出展参加 								

都道府県・担当部署 担当者の役職氏名	石川県農林水産部水産課 専門員 大橋洋一								
平成11年度予算規模 補助金・民間総計額	<table> <tr> <td>国庫補助金</td> <td>6,000,000円</td> </tr> <tr> <td>都・道・府・県費</td> <td>2,000,000円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td>4,000,000円</td> </tr> <tr> <td>(合計額)</td> <td>(12,000,000円)</td> </tr> </table>	国庫補助金	6,000,000円	都・道・府・県費	2,000,000円	民間負担金	4,000,000円	(合計額)	(12,000,000円)
国庫補助金	6,000,000円								
都・道・府・県費	2,000,000円								
民間負担金	4,000,000円								
(合計額)	(12,000,000円)								
平成11年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<p>「石川の四季のさかな」推進事業</p> <p>1. 産地表示推進キャンペーン</p> <p>①店頭イベントの開催</p> <p>②産地表示シールの鮮魚パックへの貼付</p> <p>③産地表示シールを利用した懸賞の実施</p> <p>④アンケート調査の実施</p> <p>2. 「石川の四季のさかな」PRによる販売促進</p> <p>①小売店における産地紹介チラシの配付</p> <p>②産地表示ビニールシートの店頭展示</p> <p>③産地や産地表示の取り組みをPRする新聞広告等</p> <p>事業予算：12,000,000円</p>								

都道府県・担当部署 担当者の役職氏名	福井県農林水産部水産課水産振興グループ 主任 木下 仁徳								
平成11年度予算規模 補助金・民間総計額	<table border="0"> <tr> <td>国庫補助金</td> <td>5,000,000円</td> </tr> <tr> <td>都・道・府・県費</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td>5,000,000円</td> </tr> <tr> <td>(合計額)</td> <td>(10,000,000円)</td> </tr> </table>	国庫補助金	5,000,000円	都・道・府・県費	0円	民間負担金	5,000,000円	(合計額)	(10,000,000円)
国庫補助金	5,000,000円								
都・道・府・県費	0円								
民間負担金	5,000,000円								
(合計額)	(10,000,000円)								
平成11年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<p>「越前・若狭 旬のさかな」パワーアップ事業</p> <p>事業概要：</p> <p>「越前・若狭 旬のさかな」として福井の四季のさかなを選定し、福井県で生産される優れた水産物を県内外にPRするとともにイメージアップを図ることにより、消費者への商品提供や情報発信を強化し、福井県産水産物の消費・販路の拡大に努める。</p> <p>事業期間：平成11年度～13年度</p> <p>事業主体：福井県、福井県漁業協同組合連合会</p> <p>平成11年度事業</p> <p>・事業内容</p> <p>①「越前がに」マーキング改良事業 他地域産のズワイガニと「越前がに」（福井県沖合で漁獲される雄のズワイガニ）を区別するため、県内の関係漁協が連携して統一標識を取り付けることにより、生産者自らの品質管理の徹底と、ブランドとしての信頼性の向上による価格の安定を目指す。</p> <p>②「若狭ふぐ」販路拡大事業 本県で養殖されている「若狭ふぐ」（トラフグ）のイメージ定着とブランド化を図るために、各種イベントでの試食会等PR活動を積極的に展開することによって、宅配セット等の販路拡大を図る。</p> <p>③料理教室への食材提供 家庭で魚を料理する機会を増やすために、消費地の料理教室に県産魚を提供し、さばき方から料理方法までを積極的に紹介することにより、県産魚の魚食普及を図る。</p> <p>・事業主体：福井県漁業協同組合連合会 ・予算額：10,000千円（国庫1/2）</p>								

都道府県・担当部署 担当者の役職氏名	静岡県農林水産部水産振興室 副主任 清水 雅夫								
平成11年度予算規模 補助金・民間総計額	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">国庫補助金</td> <td style="text-align: right;">8,500,000円</td> </tr> <tr> <td>都・道・府・県費</td> <td style="text-align: right;">0円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td style="text-align: right;">8,500,000円</td> </tr> <tr> <td>(合計額)</td> <td style="text-align: right;">(17,000,000円)</td> </tr> </table>	国庫補助金	8,500,000円	都・道・府・県費	0円	民間負担金	8,500,000円	(合計額)	(17,000,000円)
国庫補助金	8,500,000円								
都・道・府・県費	0円								
民間負担金	8,500,000円								
(合計額)	(17,000,000円)								
平成11年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<p><事業名称> 地域水産物流通機能強化促進事業費助成</p> <p><事業概要> 料理コンテストやお魚懇談会の開催、地域特産品の開発などにより、地域水産物の利用促進を図る。</p> <p>1. 料理コンテスト開催事業 事業実施主体：下田市金目鯛普及協議会 事業費：5,000千円 補助額：2,500千円（全額国費） 事業内容：①公募による料理レシピの募集（コンテスト） ②下田金目鯛カルチャースクールの開催（調理実習、開発研究） ③イベントでの金目鯛料理発表、試食会 ④下田金目鯛公式ガイドブックの制作、配布（レシピ集等） 対象水産物：キンメダイ</p> <p>2. お魚ふれあい事業 事業実施主体：静岡県おさかな普及協議会 事業費：4,000千円 補助額：2,000千円（全額国費） 事業内容：①定置網漁と市場の見学会の開催（2回） ②料理講習会の開催（市場等、5回） ③魚料理番組の放映（年10回） 対象水産物：サクラエビ、カツオ、シラス、ウナギ、イカ、アジ、タチウオ、ブリ、サバ、マグロ等</p> <p>3. 地域特産品開発事業 事業実施主体：焼津市水産振興会 事業費：8,000千円 補助額：4,000千円（全額国費） 事業内容：①地域水産物に関するアンケート調査（東京） ②地域水産物の詰合せ品（試作品）の作製 ③リーフレットの作製 ④全国品評会等への出展 ⑤詰合せ品（完成品）の作製</p> <p><事業予算> 8,500千円（全額国費） <補助率> 1/2以内</p>								

<p>都道府県・担当部署 担当者の役職氏名</p>	<p>愛知県農業水産部水産振興室 主査 鈴木 一男</p>
<p>平成11年度予算規模 補助金・民間総計額</p>	<p>愛知県魚市場協会補助金 270,000円 <団体運営費補助金(県)> 水産資源増大対策事業助成金 300,000円 <(財)愛知県水産業振興基金助成金></p>
<p>平成11年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算</p>	<p>事業主体：愛知県魚市場協会</p> <p>事業名称：水産物流通促進対策事業</p> <p>水産物の消費拡大を図り、水産物市場経営の向上を目的として魚食普及用資材を会員各位及び消費者に配付するなど、水産物の消費拡大に努める。</p> <p>1. 旬の魚カレンダーを作成、会員団体（44会員）、県民サービスコーナーを通じて消費者に配付</p>

<p>都道府県・担当部署 担当者の役職氏名</p>	<p>三重県農林水産商工部農芸畜産振興課流通対策グループ 主事 小久保 晶</p>
<p>平成11年度予算規模 補助金・民間総計額</p>	<p>国庫補助金 3,000,000円 都・道・府・県費 0円 民間負担金 3,000,000円 (合計額) (6,000,000円)</p>
<p>平成11年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算</p>	<p>事業名：食品商業組織活性化事業 事業主体：三重県水産物消費拡大促進協議会 事業概要： 1. 食品商業組織活性化事業促進事業 6,000千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会開催 ・広報普及活動の実施 ・お魚料理コンクールの実施 ・親子料理教室の開催 ・料理講習会の開催 ・テレビお魚料理放送等 <p>(その他) 国庫補助事業・・・補助率1/2</p>

都道府県・担当部署 担当者の役職氏名	滋賀県農政水産部水産課 主事 大橋 淳也								
平成11年度予算規模 補助金・民間総計額	<table border="0"> <tr> <td>国庫補助金</td> <td>1, 160, 000円</td> </tr> <tr> <td>都・道・府・県費</td> <td>590, 000円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td>1, 750, 000円</td> </tr> <tr> <td>(合計額)</td> <td>(3, 500, 000円)</td> </tr> </table>	国庫補助金	1, 160, 000円	都・道・府・県費	590, 000円	民間負担金	1, 750, 000円	(合計額)	(3, 500, 000円)
国庫補助金	1, 160, 000円								
都・道・府・県費	590, 000円								
民間負担金	1, 750, 000円								
(合計額)	(3, 500, 000円)								
平成11年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<p>事業名：産地流通機能強化事業</p> <p>事業主体：県漁業協同組合連合会 県淡水養殖漁業協同組合 県水産加工業協同組合</p> <p>事業費：2, 320, 000円(補助率 1/2)</p> <p>事業概要：都道府県協議会の開催 地域推進協議会の開催 新事業展開促進事業(人材育成事業等) 地域流通機能強化促進事業(普及啓発等)</p> <p>事業名：水産物流通促進対策事業</p> <p>事業主体：県水産加工業協同組合</p> <p>事業費：1, 180, 000円</p> <p>事業概要：水産物加工品品評会の開催 全国農林水産祭への参画</p>								

都道府県・担当部署 担当者の役職氏名	大阪府環境農林水産部水産課 企画調整係 主事 廣川 宏								
平成11年度予算規模 補助金・民間総計額	<table border="0"> <tr> <td>国庫補助金</td> <td>350,000円</td> </tr> <tr> <td>都・道・府・県費</td> <td>350,000円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td>2,934,000円</td> </tr> <tr> <td>(合計額)</td> <td>(3,634,000円)</td> </tr> </table>	国庫補助金	350,000円	都・道・府・県費	350,000円	民間負担金	2,934,000円	(合計額)	(3,634,000円)
国庫補助金	350,000円								
都・道・府・県費	350,000円								
民間負担金	2,934,000円								
(合計額)	(3,634,000円)								
平成11年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<p>魚食普及キャンペーン</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 料理冊子の作製及び料理教室の開催 (2,210,000円) 2. 魚食普及啓発グッズの作製 (970,000円) <ul style="list-style-type: none"> ・魚食普及月間PRポスター ・おさかなカレンダー2000部等 3. イベント出展・協力 (100,000円) 5. その他 (354,000円) <p>☆事業実施は、大阪府も構成団体に入っている大阪おさかな健康食品協議会が行っている。</p>								

<p>都道府県・担当部署 担当者の役職氏名</p>	<p>兵庫県農林水産部水産課水産専門技術員 山村 雅雄</p>								
<p>平成11年度予算規模 補助金・民間総計額</p>	<table border="0"> <tr> <td>国庫補助金</td> <td>2,750,000円</td> </tr> <tr> <td>都道府県費</td> <td>5,250,000円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td>10,000,000円</td> </tr> <tr> <td>(合計額)</td> <td>(18,000,000円)</td> </tr> </table>	国庫補助金	2,750,000円	都道府県費	5,250,000円	民間負担金	10,000,000円	(合計額)	(18,000,000円)
国庫補助金	2,750,000円								
都道府県費	5,250,000円								
民間負担金	10,000,000円								
(合計額)	(18,000,000円)								
<p>平成11年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算</p>	<p>1. 漁協・生協間連携促進事業 漁協・生協・行政との連携による事業促進委員会を設置し、産・消連携のもと、産地育成と消費者の視点に立って魚食普及を進める ①事業主体：兵庫県協同組合連絡協議会水産部会 ②事業費：1,500千円（県1/3、民間2/3） ③事業内容：・定例産直会 ・コープ店舗実演販売、コープ祭り参加</p> <p>2. 農林漁業祭 活力ある農山漁村の構築と農林水産業の振興と発展を図るとともに、農林水産業及び農林水産物に対する理解を促し、消費の拡大を図る。 ①事業主体：農林漁業祭実行委員会 ②事業費：11,000千円（県2,000千円、漁連等326千円 定額） ③入場者数：135,000人 ④事業内容：・農林水産物の展示即売 ・農林水産業のPR等</p> <p>3. ひょうごブランド商品育成事業 地域食品のPRと販路拡大を図るために、認証基準を設け、ブランド化の推進を図る。 ①事業主体：県 ②事業費：5,500千円（国1/2、県1/2【農林水産物の計】） ③認証商品：干カレイ、干ハタハタ、干キス、イカナゴの釜揚げ イカナゴの佃煮（釘煮）、チリメン、ジンバ（ホンダワラの種類）の佃煮、ゆでホタルイカ</p>								

都道府県・担当部署 担当者の役職氏名	奈良県中央卸売市場業務課								
平成11年度予算規模 補助金・民間総計額	<table border="0"> <tr> <td>国庫補助金</td> <td style="text-align: right;">0円</td> </tr> <tr> <td>都・道・府・県費</td> <td style="text-align: right;">1,000,000円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td style="text-align: right;">2,000,000円</td> </tr> <tr> <td>(合計額)</td> <td style="text-align: right;">(3,000,000円)</td> </tr> </table>	国庫補助金	0円	都・道・府・県費	1,000,000円	民間負担金	2,000,000円	(合計額)	(3,000,000円)
国庫補助金	0円								
都・道・府・県費	1,000,000円								
民間負担金	2,000,000円								
(合計額)	(3,000,000円)								
平成11年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<p>水産物消費拡大推進事業</p> <p>1. 目的 市場の水産物流通関係団体及び開設者が一体となり、水産物についての情報を提供する等、健康食としての水産物に対する消費者の関心を高め、水産物の消費拡大を推進し、奈良県中央卸売市場の活性化を図る。</p> <p>2. 補助金交付団体 奈良県魚食普及協議会（設置 昭和62年10月～） 構成……中央卸売市場水産物卸売業者（2社） " 水産物卸協同組合（仲卸組合） " 水産物商業協同組合（買参人組合） 奈良県（開設者）</p> <p>3. 事業 ①予算額 3,000千円 ②事業内容（補助事業） ・水産物を利用した料理教室・講習会の開催 2,000千円 ・水産物の消費拡大のための広報活動 700千円 ・協議会運営費 300千円</p> <p style="text-align: center;">（補助率 1/3以内）</p>								

都道府県・担当部署 担当者の役職氏名	和歌山県農林水産部水産課漁業振興班 主査 岩橋 恵洋								
平成11年度予算規模 補助金・民間総計額	<table border="0"> <tr> <td>国庫補助金</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>都・道・府・県費</td> <td>729,000円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td>891,000円</td> </tr> <tr> <td>(合計額)</td> <td>(1,620,000円)</td> </tr> </table>	国庫補助金	0円	都・道・府・県費	729,000円	民間負担金	891,000円	(合計額)	(1,620,000円)
国庫補助金	0円								
都・道・府・県費	729,000円								
民間負担金	891,000円								
(合計額)	(1,620,000円)								
平成11年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<p>事業名：平成11年度 おさかなママさんクッキングセミナー事業 (県単事業)</p> <p>事業主体：和歌山県漁協婦人部連絡協議会</p> <p>事業概要：水産物の消費拡大を目的として、一般女性を対象に県内数カ所で「おさかなママさん」による漁村料理や魚の調理方法の講習会を開催し、県内水産物の積極的活用及び普及を図る。</p> <p>事業内容：料理講習会の開催 事後アンケート調査の実施</p> <p>※「おさかなママさん」とは、県漁協婦人部連絡協議会が定めるおさかなママさんセミナーの全課程を修了した者に対し、「おさかなママさん」として委嘱をした者であり、役割として県漁婦連及び支部事業の魚食普及のための料理交換会等の場で、調理技術の指導を行う。</p>								

都道府県・担当部署 担当者の役職氏名	岡山県農林水産部水産課 主事 立石久実子												
平成11年度予算規模 補助金・民間総計額	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">国庫補助金</td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 20%; text-align: right;">円</td> </tr> <tr> <td>都道府県費</td> <td></td> <td style="text-align: right;">円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td></td> <td style="text-align: right;">円</td> </tr> <tr> <td>(合計額)</td> <td style="text-align: center;">(</td> <td style="text-align: right;">円)</td> </tr> </table>	国庫補助金		円	都道府県費		円	民間負担金		円	(合計額)	(円)
国庫補助金		円											
都道府県費		円											
民間負担金		円											
(合計額)	(円)											
平成11年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<p>1. 魚食普及活動 県漁婦連が中心となって「花ずし」講習会、加工講習会を開催</p> <p>2. 水産業6次産業化推進事業 ①低コスト漁業の推進などの生産振興対策 ②産地における加工・付加価値対策 ③特産品販売体制の整備など流通対策 ①～③を3本柱とし、これらを実施するために必要な設備、建物などの設置に要する経費を補助するもの。</p> <p>※平成11年度は事業予定なし</p>												

都道府県・担当部署 担当者の役職氏名	山口県水産部水産課 課長補佐 福島 洋子								
平成11年度予算規模 補助金・民間総計額	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 150px;">国庫補助金</td> <td style="text-align: right;">0円</td> </tr> <tr> <td>都・道・府・県費</td> <td style="text-align: right;">11,640,000円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td style="text-align: right;">17,105,500円</td> </tr> <tr> <td>(合計額)</td> <td style="text-align: right;">(28,745,500円)</td> </tr> </table>	国庫補助金	0円	都・道・府・県費	11,640,000円	民間負担金	17,105,500円	(合計額)	(28,745,500円)
国庫補助金	0円								
都・道・府・県費	11,640,000円								
民間負担金	17,105,500円								
(合計額)	(28,745,500円)								
平成11年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<p>1. 水産物消費拡大対策事業（補助率1/2以内） （山口県魚食普及推進協議会の広報、普及活動への助成）</p> <p>事業費：6,745,500円 事業実施主体：山口県魚食普及推進協議会 事業概要：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 広報活動 (2) 料理講習会 <ol style="list-style-type: none"> ① 大学・高校への魚の提供及びヘルシーおさかな普及員派遣による料理講習会 ② 料理講習会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・一般消費者を対象（ヘルシーおさかな普及員及び生活改良普及員による講習会） ・食生活改善推進員を対象 (3) おさかな料理コンクールの開催 (4) 研修会の開催 ヘルシーおさかな普及員のレベルアップ研修会 (5) 山口県農林水産まつりでの魚食普及 ヘルシーおさかな普及員による「お魚すきすき料理交流教室」等 (6) 魚食普及ステーション事業 <p>2. 新鮮やまぐち消費拡大推進事業（補助率1/2） 事業費：22,000,000円 事業実施主体：水産やまぐちパワーアップ推進協議会 事業概要：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 新鮮やまぐちキャンペーン事業 <ol style="list-style-type: none"> ① テレビ等による情報発信 ② 新鮮やまぐち隊による宣伝活動 ③ パンフレット等の作成 ④ 料理レシピの作成・配布 ⑤ 大消費地でのキャンペーン (2) 加工品ブランド推進事業 <ol style="list-style-type: none"> ① 特産品づくり ② 衛生管理講習会の開催 ③ 商談会の開催 (3) 旬の魚食普及推進事業 <ol style="list-style-type: none"> ① 料理教室の開催 ② 料理コンクールの開催 								

都道府県・担当部署 担当者の役職氏名	徳島県水産課普及係 技師 守岡 佐保								
平成11年度予算規模 補助金・民間総計額	<table border="0"> <tr> <td>国庫補助金</td> <td>2,881,000円</td> </tr> <tr> <td>都・道・府・県費</td> <td>2,781,000円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td>1,500,000円</td> </tr> <tr> <td>(合計額)</td> <td>(7,162,000円)</td> </tr> </table>	国庫補助金	2,881,000円	都・道・府・県費	2,781,000円	民間負担金	1,500,000円	(合計額)	(7,162,000円)
国庫補助金	2,881,000円								
都・道・府・県費	2,781,000円								
民間負担金	1,500,000円								
(合計額)	(7,162,000円)								
平成11年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<p>1. 水産物産地流通機能強化事業</p> <p>事業概要：現在の市場流通チャンネル以外のチャンネル（例：直販事業）開拓や共販を行っている漁協間の情報交換の促進により、産地市場の強化を図る。流通機能強化担当者会議及び地域推進協議会の開催、漁業系統団体の参加による直販事業の支援、メディアを活用しての魚食普及のPR等を行う。</p> <p>事業主体：県及び漁業系統団体</p> <p>事業予算：5,762,000円 国庫補助率1/2（漁協等への間接補助率1/2）</p> <p>2. 水産物流通情報調査・水産加工業育成事業</p> <p>事業概要：県下の産直イベントへの参加促進、水産加工品の普及・販売促進と大都市消費地市場の情報収集と市況調査を行う。</p> <p>事業主体：県</p> <p>事業予算：1,400,000円</p>								

都道府県・担当部署 担当者の役職氏名	香川県農林水産部水産課 副主幹 吉田光俊 主査 小林 武								
平成11年度予算規模 補助金・民間総計額	<table border="0"> <tr> <td>国庫補助金</td> <td>1,000,000円</td> </tr> <tr> <td>都・道・府・県費</td> <td>9,167,000円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td>6,980,000円</td> </tr> <tr> <td>(合計額)</td> <td>(17,147,000円)</td> </tr> </table>	国庫補助金	1,000,000円	都・道・府・県費	9,167,000円	民間負担金	6,980,000円	(合計額)	(17,147,000円)
国庫補助金	1,000,000円								
都・道・府・県費	9,167,000円								
民間負担金	6,980,000円								
(合計額)	(17,147,000円)								
平成11年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<p>1. 水産物有効利用推進事業（県費補助事業） 16,147千円</p> <p>本県水産物のイメージアップとブランド化を図るため、県魚であるハマチ等を活用して県産水産物のPRを行うとともに消費者の本県水産業に関する知識の向上と理解を深める。</p> <p>また、水産物流通が多様化する中で、地元の旅館・ホテル等との連携により地元水産物の利用を促進するなど市場外流通に関しても、地域の流通機能を強化し、販売販路の多様化を通じて漁業経営の安定化を図る。</p> <p>1) かがわのさかなイメージアップ推進事業 14,147千円（うち事務費 1,187千円） ・事業主体：香川県漁連・シーフードかがわ ・県補助率 1/2</p> <p>2) 地域水産物利用事業 2,000千円 ・事業主体：土庄町 ・国補助率 1/2、県補助率 1/4</p> <p>2. 内水面水産物需要開拓事業（県費単独事業） 1,000千円</p> <p>内水面で生産された水産物の需要を開拓するために、県産淡水魚を素材とした特産品の研究開発を実施するとともに、内水面水産物有効利用促進協議会及び料理講習会を開催する。</p> <p>1) 内水面水産物有効利用促進協議会 250千円 2) 料理講習会 250千円 3) 淡水魚を素材にした特産品の研究開発 500千円</p>								

都道府県・担当部署 担当者の役職氏名	高知県海洋局海洋漁政課 主幹 三背 徹										
平成11年度予算規模 補助金・民間総計額	<table border="0"> <tr> <td>国庫補助金</td> <td>3,728,000円</td> </tr> <tr> <td>都道府県費</td> <td>928,000円</td> </tr> <tr> <td>市町村費</td> <td>2,500,000円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td>33,050,000円</td> </tr> <tr> <td>(合計額)</td> <td>(約40,206,000円)</td> </tr> </table>	国庫補助金	3,728,000円	都道府県費	928,000円	市町村費	2,500,000円	民間負担金	33,050,000円	(合計額)	(約40,206,000円)
国庫補助金	3,728,000円										
都道府県費	928,000円										
市町村費	2,500,000円										
民間負担金	33,050,000円										
(合計額)	(約40,206,000円)										
平成11年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<p>1. 産地流通機能強化事業 事業概要： ・都道府県推進協議会（県協議会）の開催 ・地域推進協議会（地域協議会）の開催 ・産地市場統合等促進事業（流通合理化等） ・新事業展開促進事業（人材育成等） ・地域流通機能強化促進事業（普及啓発等） 事業予算：7,456,000円 負担割合 県協議会 国1/2、県1/2 " 以外 国1/2、市町村等1/2</p> <p>2. 高知県漁業祭及びお魚料理教室 （高知県漁業協同組合連合会） 事業概要： （漁業祭）県下漁協、漁業団体等が参加し、鮮魚・水産加工品の展示即売 （料理教室）一般市民約300人を対象に講習会を開催 事業予算：2,300,000円</p> <p>3. 漁村女性パワーアップ促進事業 （高知県漁協婦人部連合協議会） 事業概要： 高校女子生徒を対象とした魚食普及料理教室 事業予算：450,000円</p> <p>4. まぐろ消費拡大キャンペーン事業 （高知県鯉鮪漁業協同組合） 事業概要： 消費者に安価で良質なまぐろを提供し消費拡大を図る。 事業予算：約30,000,000円</p>										

都道府県・担当部署 担当者の役職氏名	福岡県水産林務部水産振興課 主任主事 松本かおり									
平成11年度予算規模 補助金・民間総計額	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">県</td> <td style="width: 15%;">費</td> <td style="width: 70%; text-align: right;">2, 053, 000円</td> </tr> <tr> <td>民間</td> <td>負担金</td> <td style="text-align: right;">1, 918, 000円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(合計額)</td> <td style="text-align: right;">(3, 971, 000円)</td> </tr> </table>	県	費	2, 053, 000円	民間	負担金	1, 918, 000円		(合計額)	(3, 971, 000円)
県	費	2, 053, 000円								
民間	負担金	1, 918, 000円								
	(合計額)	(3, 971, 000円)								
平成11年度魚食普及 の事業名称と事業概 要及び事業予算	<p>四季のおさかな特産物化促進事業</p> <p>水産物市場は、市場外流通の増加、輸入水産物の流入等で多様化している。このような状況の中で、鮮度が高いことや地域の特産であること等を県産魚の特性としてPRし、消費及び販路拡大による特産物化（ブランド化）を促進し、県の水産業の振興を図る。</p> <p><主な取り組み内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 特産物化の方策について、生産、流通、消費の分野の代表で構成する検討委員会の開催（事業主体：県） 2. 県の主要な漁獲物である次の8魚種を中心に四季（旬）に応じて、PR販売する。 （春～秋）クルマエビ （夏）アジ、ケンサキイカ、ガザミ （冬）マダイ、ブリ、ヒラメ、コイ ①県内30店舗での「県産魚の特産物化コーナー」設置（ポップやプレート等）と購入者への動向調査 ②上記コーナーでのメニュー（レシピ）表の配布 3. お魚まつり開催 4. 魚料理で老人ホーム慰問 5. 淡水魚釣り大会開催 <p><事業主体及び事業費></p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">2～4</td> <td style="width: 60%;">福岡県魚食普及協議会</td> <td style="width: 25%; text-align: right;">2, 667千円 (補助率1/2以内)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>福岡県内水面漁業協同組合連合会</td> <td style="text-align: right;">1, 168千円 (補助率1/2以内)</td> </tr> </table>	2～4	福岡県魚食普及協議会	2, 667千円 (補助率1/2以内)	5	福岡県内水面漁業協同組合連合会	1, 168千円 (補助率1/2以内)			
2～4	福岡県魚食普及協議会	2, 667千円 (補助率1/2以内)								
5	福岡県内水面漁業協同組合連合会	1, 168千円 (補助率1/2以内)								

<p>都道府県・担当部署 担当者の役職氏名</p>	<p>佐賀県水産局水産振興課 主事 徳安 圭司</p>
<p>平成11年度予算規模 補助金・民間総計額</p>	<p>国庫補助金 0円 都・道・府・県費 2,593,000円 民間負担金 0円 (合計額) (2,593,000円)</p>
<p>平成11年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算</p>	<p>事業名：お魚ゲット食べようフォーラム事業</p> <p>事業概要：目的 若年層の水産物消費が低迷する中、次世代消費を担う若い女性（主婦等）、子供を主対象とし、水産物の良さについての認識を新たにしてもらう講義、討論会等を通して魚食普及を推進する。</p> <p>内容：・魚食普及シンポジウム ・佐賀の魚講座 ・佐賀の魚試食会</p>

<p>都道府県・担当部署 担当者の役職氏名</p>	<p>長崎県水産部生産流通課流通加工班 主事 馬場 久司</p>								
<p>平成11年度予算規模 補助金・民間総計額</p>	<table> <tr> <td>国庫補助金</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>都・道・府・県費</td> <td>7,200,000円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td>10,700,000円</td> </tr> <tr> <td>(合計額)</td> <td>(17,900,000円)</td> </tr> </table>	国庫補助金	0円	都・道・府・県費	7,200,000円	民間負担金	10,700,000円	(合計額)	(17,900,000円)
国庫補助金	0円								
都・道・府・県費	7,200,000円								
民間負担金	10,700,000円								
(合計額)	(17,900,000円)								
<p>平成11年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算</p>	<p>1. お魚ふれあい交流事業 若い世代における魚の消費低迷のなか、次世代の消費確保のため、公教育の場において、調理方法、栄養等について学習を行う。</p> <p>1) 補助事業（事業主体：長崎、佐世保、松浦魚市場協会） 事業費 8,400千円 （県費 4,200千円 補助率1/2）</p> <p>2. 長崎さかな祭り 魚食普及のための企画検討、会場設営、アトラクション等を実施する。 事業費：9,500千円 （補助率1/2 3,000千円を限度とする。）</p>								

都道府県・担当部署 担当者の役職氏名	熊本県林務水産部漁政課企画流通係 主任技師 梅本 敬人										
平成11年度予算規模 補助金・民間総計額	<table border="0"> <tr> <td>国庫補助金</td> <td>2,000,000円</td> </tr> <tr> <td>都・道・府・県費</td> <td>4,032,000円</td> </tr> <tr> <td>市町村費</td> <td>5,150,000円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td>437,000円</td> </tr> <tr> <td>(合計額)</td> <td>(11,619,000円)</td> </tr> </table>	国庫補助金	2,000,000円	都・道・府・県費	4,032,000円	市町村費	5,150,000円	民間負担金	437,000円	(合計額)	(11,619,000円)
国庫補助金	2,000,000円										
都・道・府・県費	4,032,000円										
市町村費	5,150,000円										
民間負担金	437,000円										
(合計額)	(11,619,000円)										
平成11年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<p>地域水産物有効利用推進事業</p> <p>漁業者、水産加工業者、流通関係者、小売関係者等の密接な連携の下に、県内で水揚げされる水産物を対象に水産加工原料や給食素材としての利用促進、消費者ニーズに即した新製品の開発、新規販路の開拓等により、地域の特性を生かした水産物の有効利用・魚食普及の促進を図る。</p> <p>①モニター設置事業 445,000円(県単) お魚リーダーとして、消費者への魚食啓発事業を実施するための育成研修を行う。</p> <p>②基本方針策定事業 300,000円(国1/2、県1/2) 水俣・芦北地域の水産物流通機能強化に関する事項について協議・検討する。</p> <p>事業主体：熊本県魚食普及推進協議会</p> <p>③有効利用指導事業 926,000円(県1/2) お魚リーダーを講師としたお魚料理教室や高校等での料理教室を実施する。</p> <p>④学校給食利用促進事業 1,430,000円(県1/2) 学校給食への食材提供。</p> <p>⑤普及啓発事業 818,000円(県1/2) 県産魚介類のPR用パンフレット等の印刷・配布、小学生を対象とした体験学習会の実施、消費者団体を対象とした試食会等を実施する。</p> <p>事業主体：水俣・芦北地域水産物流通機能強化推進協議会</p> <p>⑥新規販路開拓推進事業 7,700,000円 (国:1,850,000円、県:1,850,000円、市・町:4,000,000円) 水俣市で開催される「海の幸フェア」への支援、事業実施地域の旅館及び小中学校給食への食材提供。</p>										

<p>都道府県・担当部署 担当者の役職氏名</p>	<p>大分県林業水産部漁政課 主任 一丸 和子</p>
<p>平成11年度予算規模 補助金・民間総計額</p>	<p>国庫補助金 0円 都道府県費 4,500,000円 市町村費 4,200,000円 民間負担金 9,300,000円 (合計額) (18,000,000円)</p>
<p>平成11年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算</p>	<p>1. 水産物需要拡大促進事業(県単) 補助率: 1/2 事業主体: 大分県魚食普及推進協議会 事業費: 2,000,000円 県: 1,000,000円 事業主体: 1,000,000円 事業概要: ①一般消費者、親子、子供を対象とした料理教室の開催 ②児童生徒を対象とした「お魚チャレンジ講座」の開催 ③小中学校を回る「移動お魚教室」の開催 ④魚食普及料理テキストの作成</p> <p>2. 水産加工業活性化促進事業(県単) 補助率: 1/2 事業主体: 大分県水産加工業振興協議会 事業費: 1,000,000円) 県: 500,000円 事業主体: 500,000円 事業概要: 水産加工品消費拡大に向けての展示即売及び販売促進キャンペーン事業</p> <p>3. 大分県水産振興祭(県単) 事業主体: 大分県水産振興祭実行委員会 事業費: 15,000,000円 県負担: 3,000,000円(定額) 市町村負担: 4,200,000円 その他: 7,800,000円 事業概要: 放魚、式典、水産物展示即売、料理教室等</p>

都道府県・担当部署 担当者の役職氏名	宮崎県漁政課企画流通係 主査 坂本 龍一								
平成11年度予算規模 補助金・民間総計額	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">国庫補助金</td> <td style="text-align: right;">0円</td> </tr> <tr> <td>都・道・府・県費</td> <td style="text-align: right;">14,995,000円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td style="text-align: right;">14,020,000円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(合計額)</td> <td style="text-align: right;">(29,015,000円)</td> </tr> </table>	国庫補助金	0円	都・道・府・県費	14,995,000円	民間負担金	14,020,000円	(合計額)	(29,015,000円)
国庫補助金	0円								
都・道・府・県費	14,995,000円								
民間負担金	14,020,000円								
(合計額)	(29,015,000円)								
平成11年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事業名 水産物販売促進強化事業 2. 事業概要 <ol style="list-style-type: none"> (1) 水産物ブランド確立推進事業 <ul style="list-style-type: none"> ・事業費 : 13,420千円(県1/2, 事業主体1/2) ・地域推進協議会(3地域)での地域漁獲物の差別化・ブランド化やPRなどの有利販売対策の推進 (漁連による販路開拓、各地区による検討会・商品開発・販売促進) (2) 水産物消費拡大キャンペーン事業 <ul style="list-style-type: none"> 事業費 : 14,620千円(県1/2, 事業主体1/2) ・県水産物のPR、消費拡大対策の推進 (TV番組提供、産地表示協力店でのキャンペーン、料理講習会開催、かつおイベント開催等) (3) 県推進事務費 975千円 3. 県、いきいき宮崎のさかなブランド確立推進協議会 4. 事業期間：平成11年～13年 								

都道府県・担当部署 担当者の役職氏名	鹿児島県林務水産部水産振興課漁業構造改善係 技術主査 江夏竜郎 主事 内田智久								
平成11年度予算規模 補助金・民間総計額	<table border="0"> <tr> <td>国庫補助金</td> <td style="text-align: right;">0円</td> </tr> <tr> <td>都・道・府・県費</td> <td style="text-align: right;">4,509,000円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td style="text-align: right;">4,974,000円</td> </tr> <tr> <td>(合計額)</td> <td style="text-align: right;">(9,483,000円)</td> </tr> </table>	国庫補助金	0円	都・道・府・県費	4,509,000円	民間負担金	4,974,000円	(合計額)	(9,483,000円)
国庫補助金	0円								
都・道・府・県費	4,509,000円								
民間負担金	4,974,000円								
(合計額)	(9,483,000円)								
平成11年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<p>1. 事業名 かのしまのさかなづくり促進事業</p> <p>2. 事業概要</p> <p>(1)事業種目：旬のさかなキャンペーン事業 事業主体：かのしまのさかな普及協議会 事業内容：①料理コンクール、料理教室②おさかなフェスティバル（水産加工品の展示即売会）③おさかな市（卸売市場における生鮮魚介類等の展示即売会）④量販店とのPR提携（「かごしま旬のさかな」のPR）</p> <p>(2)事業種目：銘柄確立推進事業 事業内容：本県水産物の銘柄化を行う</p> <p>(3)事業種目：HACCP導入促進事業 事業内容：①HACCP研修会の開催 事業主体：鹿児島県 ②HACCP指導者の育成 事業主体：かごしまのさかな普及協議会</p> <p>(4)事業種目：水産物品評会 事業内容：県内の水産加工品を一同に集めての品評会</p> <p>3. 事業費等</p> <p>(1)旬のさかなキャンペーン事業 事業費：6,700,000円 県費補助金：2,390,000円 事業主体負担金：4,310,000円 補助率：上記2の(2)の①～③は1/3、④は1/2</p> <p>(2)銘柄確立推進事業 事業費：580,000円 県費補助金：290,000円 事業主体負担金：290,000円 補助率：1/2</p> <p>(3)HACCP導入促進事業 事業費：1,853,000円 旅費：278,000円 県費補助金：1,479,000円 事業主体負担金：374,000円 補助率：上記2の(3)の①については1/2</p> <p>(4)水産物品評会 事業費：350,000円</p>								

都道府県・担当部署 担当者の役職氏名	沖縄県農林水産部水産振興課 主任技師 玉那覇 靖								
平成11年度予算規模 補助金・民間総計額	<table> <tr> <td>国庫補助金</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>都・道・府・県費</td> <td>9,000,000円</td> </tr> <tr> <td>民間負担金</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>(合計額)</td> <td>(9,000,000円)</td> </tr> </table>	国庫補助金	0円	都・道・府・県費	9,000,000円	民間負担金	0円	(合計額)	(9,000,000円)
国庫補助金	0円								
都・道・府・県費	9,000,000円								
民間負担金	0円								
(合計額)	(9,000,000円)								
平成11年度 魚食普及の事業名称 と事業概要及び事業 予算	<ul style="list-style-type: none"> ・モズク等特産化総合対策事業 ・モズクの新たな流通法開発や海外等でのイベントや地元の沖縄アクターズスクールとタイアップしたイベント等を通して販促活動を行う。 ・団体への委託費分 8,000,000円 <p style="text-align: center;">(別紙参照)</p>								

平成11年度 全国魚食普及担当者育成検討会報告書

平成12年3月

編集兼発行 社団法人 大日本水産会

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13

三会堂ビル 8階

電話 (03)3585-6684

FAX (03)3582-2337
